

(様式第 10)

岩医大病企第 243 号  
令和 3 年 10 月 22 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人岩手医科大学  
理事長 小川 彰

岩手医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。  
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目 1 番 1 号
氏 名	学校法人岩手医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

岩手医科大学附属病院
------------

3 所在の場所

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目 1 番 1 号	電話 (019) 613-7111
--------------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科
④腎臓内科	⑤神経内科	⑥血液内科
⑦内分泌内科	⑧代謝内科	⑨感染症内科
⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績		
・血液内科 : 血液・腫瘍内科		
・代謝内科 : 糖尿病・代謝内科		
・感染症内科 : 呼吸器内科		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科                      ②消化器外科                      ③乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      7内分泌外科                      ⑧小児外科	
診療実績 ・ 内分泌外科：外科	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科    8産科    9婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    12放射線科 ⑬放射線診断科    ⑭放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科    2矯正歯科    3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科    2児童精神科    3臨床検査科    4病理診断科    5肝臓内科    6心療内科 7老年内科    8緩和ケア内科    9肝臓外科    10気管食道外科    11形成外科    12頭頸部外科 13美容外科    14
---

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
68床	床	床	床	932床	1,000床

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	250人	453人	422.1人	看 護 補 助 者	53人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	8人	172人	73.3人	理 学 療 法 士	22人	臨床検査技師	62人
薬 剤 師	78人	0人	78人	作 業 療 法 士	13人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	1人	その他	0人
助 産 師	62人	0人	62人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1,174人	0.9人	1,174人	臨 床 工 学 士	37人	医療社会事業従事者	16人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	32人
歯 科 衛 生 士	5人	0人	5人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	180人
管理栄養士	12人	0人	12人	診 療 放 射 線 技 師	60人	その他の職員	84人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	32.7人	眼 科 専 門 医	6.4人
外 科 専 門 医	44.3人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9.6人
精 神 科 専 門 医	8.7人	放 射 線 科 専 門 医	9.8人
小 児 科 専 門 医	26.7人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10.5人
皮 膚 科 専 門 医	7.3人	整 形 外 科 専 門 医	17.2人
泌 尿 器 科 専 門 医	9.7人	麻 酔 科 専 門 医	12人
産 婦 人 科 専 門 医	17.7人	救 急 科 専 門 医	13.9人
		合 計	226.5人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (小笠原 邦昭) 任命年月日 平成30年4月1日

医療安全関係の学内委員会への出席状況 (2020年度出席回数)

- ・医療安全推進委員会 2020年4月から8回 (全12回)
- ・総合医療安全対策会議 2020年4月から12回 (全12回)
- ・監査委員会 (医療安全) 2020年4月から2回 (全2回)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	717.9 人	9.1人	792.3人
1日当たり平均外来患者数	566.3 人	209.3人	1,207.8人
1日当たり平均調剤数	6,724 剤 (調剤件数：989 件)		
必要医師数	119人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	25人		
必要(准)看護師数	384人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1,261.4m <sup>2</sup>	鉄骨造一部 鉄筋コンクリート造	病床数	24床	心電計	㊦・無
			人工呼吸装置	㊦・無	心細動除去装置	㊦・無
			その他の救急蘇生装置	㊦・無	ペースメーカー	㊦・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 564.2 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	45 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 147.2 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 薬務室					
化学検査室	402.6 m <sup>2</sup>	鉄骨造一部 鉄筋コンクリート造	(主な設備) 生化学自動分析装置 全自動尿分析装置 総合血液学検査・自動塗抹標本作成装置 免疫発光測定装置 免疫統合自動分析装置 他			
細菌検査室	183.3m <sup>2</sup>	鉄骨造一部 鉄筋コンクリート造	(主な設備) 質量分析計、薬剤感受性試験装置 血液培養自動分析装置 全自動抗酸菌培養検査装置 他			
病理検査室	247.8m <sup>2</sup>	鉄骨造一部 鉄筋コンクリート造	(主な設備) 凍結組織切片作成装置 ホルマリン対策臓器撮影装置 自動ガラス封入・染色装置 システム生物顕微鏡 他			
病理解剖室	50.0m <sup>2</sup>	鉄骨造一部 鉄筋コンクリート造	(主な設備) 感染防止対策用解剖台 ラミナーフローユニット プッシュプル型切り出し台 ホルマリン固定液作成装置 他			
研究室	15,148.3 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	主な設備) 研究用機器 他			

講義室	4,305.8 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 21 室	収容定員 2,848 人
図書室	1,229 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 4 室	蔵書数 99,800 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	80.6 %	逆紹介率	123.9 %
算出根拠 A: 紹介患者の数			4,786 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,273 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,894 人
D: 初診の患者の数			8,291 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三木 保	東京医科大学 医学部 医療 の質・安全管理 分野主任教授	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ <del>無</del>	1
長谷川 頌	長谷川菜園法 律事務所代表		法律に関する識 見を有する者	有・ <del>無</del>	1
奥寺 高秋	元特別養護老 人ホーム・日赤 鷺鳴荘園長		医療を受ける者 その他医療従事 者以外の者	有・ <del>無</del>	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
細胞診検体を用いた遺伝子検査	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	0人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下直腸手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 ロボット支援(ダヴィンチ)を用いた直腸がん手術(2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	経皮的僧帽弁クリップ術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 経皮的僧帽弁接合不全修復システムを用い、高度僧帽弁閉鎖不全症の患者を経皮経カテーテル的に修復する(2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	ロボット支援下における以下の術式 1、胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 2、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 3、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 上記3術式の手術をロボット支援下を実施する(2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 子宮体がんに対する子宮悪性腫瘍手術をロボット支援下にて実施する(2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 食道がんに対する食道切除術をロボット支援(ダヴィンチ)下に施行する(2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 中隔穿刺にて右房から左房にアプローチ、左心耳内に栓塞デバイスを留置して左心耳の閉鎖を行い、デバイス表面が内皮化されることで、左心耳由来の血栓による心原性脳卒中予防を図る。 (2020年11月12日 新規性の取下を承認)			
医療技術名	System-i	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肝動注療法でコントロールできない多結節性肝がんに対し、カテーテルを上腕動脈または大動脈から挿入し、側孔を開けたカテーテルを腹部大動脈に留置。カテーテルの末端に約1cmのキャップを接続し、皮下に埋め込む。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	168		エーラス・ダンロス症候群	
2	筋萎縮性側索硬化症	18	169	メンケス病	
3	脊髄性筋萎縮症		170	オクシピタル・ホーン症候群	
4	原発性側索硬化症		171	ウィルソン病	
5	進行性核上性麻痺	3	172	低ホスファターゼ症	
6	パーキンソン病	35	173	VATER症候群	
7	大脳皮質基底核変性症	4	174	那須・ハコラ病	
8	ハンチントン病	2	175	ウィーバー症候群	
9	神経有棘赤血球症		176	コフィン・ローリー症候群	
10	シャルコー・マリートゥース病		177	ジュベール症候群関連疾患	
11	重症筋無力症	27	178	モワット・ウィルソン症候群	
12	先天性筋無力症候群		179	ウリアムズ症候群	
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	20	180	ATR-X症候群	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	15	181	クルーゾン症候群	
15	封入体筋炎		182	アペール症候群	
16	クロウ・深瀬症候群	1	183	ファイファー症候群	
17	多系統萎縮症	5	184	アントレー・ピクスラー症候群	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	5	185	コフィン・シリス症候群	
19	ライソゾーム病	1	186	ロスマンド・トムソン症候群	
20	副腎白質ジストロフィー		187	歌舞伎症候群	
21	ミトコンドリア病	4	188	多脾症候群	1
22	もやもや病	43	189	無脾症候群	
23	プリオン病	1	190	鯉耳腎症候群	
24	亜急性硬化性全脳炎		191	ウエルナー症候群	
25	進行性多巣性白質脳症	2	192	コケイン症候群	
26	HTLV-1関連脊髄症	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	
27	特発性基底核石灰化症		194	ソトス症候群	
28	全身性アミロイドーシス	6	195	ヌーナン症候群	1
29	ウルリッヒ病		196	ヤング・シンプソン症候群	
30	遠位型ミオパチー		197	1p36欠失症候群	
31	ベスレムミオパチー		198	4p欠失症候群	
32	自己食食空胞性ミオパチー		199	5p欠失症候群	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
34	神経線維腫症	11	201	アンジェルマン症候群	
35	天疱瘡	4	202	スミス・マギニス症候群	
36	表皮水疱症		203	22q11.2欠失症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	204	エマヌエル症候群	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
39	中毒性表皮壊死症		206	脆弱X症候群	
40	高安動脈炎	3	207	総動脈幹遺残症	
41	巨細胞性動脈炎		208	修正大血管転位症	1
42	結節性多発動脈炎	1	209	完全大血管転位症	2
43	顕微鏡的多発血管炎	6	210	単心室症	5
44	多発血管炎性肉芽腫症	1	211	左心低形成症候群	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	212	三尖弁閉鎖症	2
46	悪性関節リウマチ	1	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1
47	バージャー病		214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	215	ファロー四徴症	
49	全身性エリテマトーデス	55	216	両大血管右室起始症	1
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	23	217	エプスタイン病	1
51	全身性強皮症	16	218	アルポート症候群	2
52	混合性結合組織病	9	219	ギャロウェイ・モワット症候群	
53	シェーグレン症候群	1	220	急速進行性糸球体腎炎	7
54	成人スチル病	2	221	抗糸球体基底膜腎炎	2
55	再発性多発軟骨炎		222	一次性ネフローゼ症候群	32
56	ベーチェット病	17	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2
57	特発性拡張型心筋症	18	224	紫斑病性腎炎	1
58	肥大型心筋症	4	225	先天性腎性尿崩症	
59	拘束型心筋症		226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	
60	再生不良性貧血	32	227	オスラー病	1
61	自己免疫性溶血性貧血		228	閉塞性細気管支炎	
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	
63	特発性血小板減少性紫斑病	27	230	肺胞低換気症候群	
64	血栓性血小板減少性紫斑病		231	α1-アンチトリプシン欠乏症	
65	原発性免疫不全症候群	5	232	カーニー複合	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

66	IgA腎症	12	233	ウォルフラム症候群	
67	多発性嚢胞腎	8	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	
68	黄色靱帯骨化症	5	235	副甲状腺機能低下症	
69	後縦靱帯骨化症	22	236	偽性副甲状腺機能低下症	
70	広範脊柱管狭窄症		237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	
71	特発性大腿骨頭壊死症	10	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	
72	下垂体性ADH分泌異常症	1	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	
73	下垂体性TSH分泌亢進症		240	フェニルケトン尿症	
74	下垂体性PRL分泌亢進症		241	高チロシン血症1型	
75	クッシング病	1	242	高チロシン血症2型	
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		243	高チロシン血症3型	
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	2	244	メーブルシロップ尿症	
78	下垂体前葉機能低下症	8	245	プロピオン酸血症	
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1	246	メチルマロン酸血症	
80	甲状腺ホルモン不応症		247	イソ吉草酸血症	
81	先天性副腎皮質酵素欠損症		248	グルコーストランスポーター1欠損症	
82	先天性副腎低形成症		249	グルタル酸血症1型	
83	アジソン病		250	グルタル酸血症2型	
84	サルコイドーシス	20	251	尿素サイクル異常症	
85	特発性間質性肺炎	10	252	リジン尿性蛋白不耐症	1
86	肺動脈性肺高血圧症	11	253	先天性葉酸吸収不全	
87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症		254	ポルフィリン症	
88	慢性血栓栓性肺高血圧症	8	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	
89	リンパ脈管筋腫症		256	筋型糖原病	
90	網膜色素変性症		257	肝型糖原病	
91	パッド・キアリ症候群	5	258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	
92	特発性門脈圧亢進症	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
93	原発性胆汁性胆管炎	53	260	シトステロール血症	
94	原発性硬化性胆管炎	7	261	タンジール病	
95	自己免疫性肝炎	17	262	原発性高カイロミクロン血症	
96	クローン病	90	263	脳腫黄色腫症	
97	潰瘍性大腸炎	81	264	無βリポタンパク血症	
98	好酸球性消化管疾患	1	265	脂肪萎縮症	
99	慢性特発性偽性腸閉塞症		266	家族性地中海熱	
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		267	高IgD症候群	
101	腸管神経節細胞減少症		268	中條・西村症候群	
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
103	CFC症候群		270	慢性再発性多発性骨髄炎	
104	コストロ症候群		271	強直性脊椎炎	3
105	チャージ症候群		272	進行性骨化性線維異形成症	1
106	クリオピリン関連周期熱症候群		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
107	若年性特発性関節炎	2	274	骨形成不全症	
108	TNF受容体関連周期性症候群		275	タナトフォリック骨異形成症	
109	非典型溶血性尿毒症症候群		276	軟骨無形成症	
110	ブラウ症候群		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
111	先天性ミオパチー		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
113	筋ジストロフィー	3	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
116	アトピー性脊髄炎		283	後天性赤芽球癆	1
117	脊髄空洞症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
118	脊髄腫瘍		285	ファンコニ貧血	
119	アイザックス症候群		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
120	遺伝性ジストニア		287	エプスタイン症候群	
121	神経フェリチン症		288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症		289	クロンカイト・カナダ症候群	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		292	総排泄腔外反症	
126	ペリー症候群		293	総排泄腔遺残	
127	前頭側頭葉変性症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		295	乳幼児肝巨大血管腫	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		296	胆道閉鎖症	
130	先天性無痛無汗症		297	アラジール症候群	1
131	アレキサンダー病	1	298	遺伝性膝炎	
132	先天性核上性球麻痺		299	嚢胞性線維症	
133	メビウス症候群		300	IgG4関連疾患	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		301	黄斑ジストロフィー	
135	アイカルディ症候群		302	レーベル遺伝性視神経症	
136	片側巨脳症		303	アッシュャー症候群	
137	限局性皮質異形成		304	若年発症型両側性感音難聴	5
138	神経細胞移動異常症		305	遅発性内リンパ水腫	
139	先天性大脳白質形成不全症		306	好酸球性副鼻腔炎	1
140	ドラベ症候群		307	カナバン病	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	308	進行性白質脳症	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん		309	進行性ミオクローヌステんかん	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		310	先天異常症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		311	先天性三尖弁狭窄症	
145	ウエスト症候群		312	先天性僧帽弁狭窄症	
146	大田原症候群		313	先天性肺静脈狭窄症	
147	早期ミオクロニー脳症		314	左肺動脈右肺動脈起始症	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		316	カルニチン回路異常症	
150	環状20番染色体症候群		317	三頭酵素欠損症	
151	ラスムッセン脳炎		318	シトリン欠損症	
152	PCDH19関連症候群		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
155	ランドウ・クレフナー症候群		322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
156	レット症候群		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	324	メチルグルタコン酸尿症	
158	結節性硬化症		325	遺伝性自己炎症疾患	
159	色素性乾皮症		326	大理石骨病	
160	先天性魚鱗癬		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
161	家族性良性慢性天疱瘡		328	前眼部形成異常	
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2	329	無虹彩症	
163	特発性後天性全身性無汗症	1	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	
164	眼皮膚白皮症		331	特発性多中心性キャスルマン病	
165	肥厚性皮膚骨膜		332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
166	弾性線維性仮性黄色腫		333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	
167	マルファン症候群				

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料一般病棟7対1入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料精神病棟10対1入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算2
・臨床研修病院入院診療加算	・入退院支援加算1、3、入院時支援加算
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・認知症ケア加算1
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算 50対1	・精神科急性期医師配置加算
・看護職員夜間配置16対1加算1	・排尿自立支援加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・地域医療体制確保加算
・診療録管理体制加算2	・地域歯科診療支援病院入院加算
・医師事務作業補助体制加算1	・呼吸ケアチーム加算
・療養環境加算	・後発医薬品使用体制加算1
・無菌治療室管理加算1	・データ提出加算2、提出データ評価加算
・無菌治療室管理加算2	・精神疾患診療体制加算
・緩和ケア診療加算	・救命救急入院料3(注3、注4及び注6に掲げる加算)
・精神科応急入院施設管理加算	・特定集中治療室管理料3(注2に掲げる加算)
・精神科身体合併症管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・精神病棟入院時医学管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)
・精神科リエゾンチーム加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(新生児)
・強度行動障害入院医療管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・がん拠点病院加算	・小児入院医療管理料2
・医療安全対策加算1	・緩和ケア病棟入院料1
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算)	・児童・思春期精神科入院医療管理料
・患者サポート体制充実加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・高度難聴指導管理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・ウイルス疾患指導料の注2	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・糖尿病合併症管理料	・人工中耳植込術
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術・交換術
・精神科退院時共同指導料1及び2	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(医科)
・がん患者指導管理料イ	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・がん患者指導管理料ロ	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・がん患者指導管理料ハ	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・がん患者指導管理料ニ	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・外来緩和ケア管理料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)、乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後の場合)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・糖尿病透析予防指導管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来放射線照射診療料	・胸腔鏡下良性縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腎代替療法指導管理料	・内視鏡による縫合術・閉鎖術
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下弁形成術
・がん治療連携管理料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・認知症専門診断管理料	・胸腔鏡下弁置換術
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・経皮的僧帽弁クリップ術
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)

・外来排尿自立指導料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・薬剤管理指導料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・医療機器安全管理料2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料(歯科)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
・在宅患者訪問看護指導料	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経皮的冠動脈形成術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・皮下連続式グルコース測定	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・遺伝学的検査	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・骨髄微小残存病変量測定	・経皮的下肢動脈形成術
・BRCA1/2遺伝子検査	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・がんゲノムプロファイリング検査	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・先天性代謝異常症検査	・経皮的大動脈遮断術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・ダメージコントロール手術
・HPV核酸検出、HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・検体検査管理加算(IV)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・国際標準検査管理加算	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・遺伝カウンセリング加算	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・時間内歩行試験、シャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型心電図検査	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・ヘッドアップティルト試験	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)
・人工臓器療法、人工臓器検査	・腹腔鏡下肝切除術

・長期継続頭蓋内脳波検査	・生体部分肝移植術
・神経学的検査	・同種死体肝移植術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・精密触覚機能検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・画像診断管理加算1・2(歯科)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遠隔画像診断(医科・歯科)	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・ポジトロン断層撮影	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・同種死体腎移植術
・CT撮影及びMRI撮影	・生体腎移植術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨隆固定術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・連携充実加算	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・無菌製剤処理料	・輸血管理料Ⅱ
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・自己生体組織接着剤作成術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置
・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)	・胃瘻造設術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
・摂食嚥下支援加算	・麻酔管理料(Ⅰ)
・がん患者リハビリテーション料	・麻酔管理料(Ⅱ)
・リンパ浮腫複合的治療料	・放射線治療専任加算
・療養生活環境整備指導加算	・外来放射線治療加算



・救急患者精神科継続支援料	・高エネルギー放射線治療
・認知療法・認知行動療法1	・1回線量増加加算(全乳房照射、前立腺照射)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・医療保護入院等診療料	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・精神科ショートケア「小規模なもの」	・体外照射呼吸性移動対策加算
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・定位放射線治療
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・一酸化窒素吸入療法	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速細胞診
・CAD/CAM冠	・病理診断管理加算2
・センチネルリンパ節加算	・デジタル病理画像による病理診断
・皮膚移植術(死体)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・組織拡張器による再建術(乳房(再建手術)の場合に限る)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・椎間板内酵素注入療法	・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
 (注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 26 例 / 剖検率 6.1 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ナノ粒子を用いた、癌原発巣-転移巣CT検出と、放射線遠達効果による転移巣の治療法	原田 聡	放射線医学講座	780,000	補 委 文部科学省
胃乳頭状腺癌における臨床病理学および分子病理学的解析	上杉 憲幸	病理診断学講座	390,000	補 委 文部科学省
超高精細CTによるAdamkiewicz動脈とその側副血行路の研究	吉岡 邦浩	放射線医学講座	1,040,000	補 委 文部科学省
磁気共鳴分光法を用いた脳内代謝物質による新生児重症仮死の高精度予後予測法の確立	赤坂 真奈美	小児科学講座	910,000	補 委 文部科学省
非アポトーシス細胞死制御による非アルコール性脂肪肝炎の治療法確立の試み	柿坂 啓介	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,430,000	補 委 文部科学省
高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明	石垣 泰	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	1,170,000	補 委 文部科学省
脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発組織を用いた脳転移予測バイオマーカーの探索	石田 和茂	外科学講座	1,300,000	補 委 文部科学省
歩行機能に与える圧迫性脊髄症に対する除圧術の影響と脳循環代謝変化との相関	菅原 淳	脳神経外科学講座	1,170,000	補 委 文部科学省
脳虚血再灌流時の内頸静脈血中血管ホルモン動態解析による脳血流自動調節機構の解明	吉田 研二	脳神経外科学講座	1,170,000	補 委 文部科学省
頸動脈内膜剥離術を用いた脳循環不全性認知症とアルツハイマー病の関連の解明	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	520,000	補 委 文部科学省

子宮体部漿液性癌の治療抵抗性を克服する新規治療法の開発	馬場 長	産婦人科学講座	260,000	補 委 文部科学省
ウスタビガ菌シルクプロテインとiPS細胞による歯槽骨再生技術の開発	菊池 和子	口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野	1,690,000	補 委 文部科学省
デジタル技術の応用による咀嚼運動に調和した補綴装置製作法の開発	田邊 憲昌	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	780,000	補 委 文部科学省
口腔機能・形態の発育を担う顎顔面骨格筋局所に発現するアミノ酸センサーの役割	森川 和政	口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野	325,000	補 委 文部科学省
周術期口腔粘膜炎症インディケータとしての唾液炎症マーカーの検討	岸 光男	口腔医学講座予防歯科学分野	1,040,000	補 委 文部科学省
がん終末期における地域医療連携の質を評価するための新指標開発に関する研究	木村 祐輔	緩和医療学科	1,300,000	補 委 文部科学省
行動変容プロセス評価と検証による生活習慣病重症化予防のための多因子治療の探索	旭 浩一	内科学講座腎・高血圧内科学分野	1,040,000	補 委 文部科学省
VEGFR-3陽性単球系細胞を指標とした間質性肺炎の新規マーカーの開発と病態解明	山下 雅大	呼吸器内科分野内科学講座	1,950,000	補 委 文部科学省
多系統萎縮症の脳内 $\alpha$ シヌクレイン異常凝集に対する腸内細菌叢の関与の解明	前田 哲也	内科学講座脳神経内科・老年科分野	650,000	補 委 文部科学省
高齢者筋層浸潤性膀胱癌に対するMMC+UFTを用いた化学放射線療法の臨床研究	有賀 久哲	放射線腫瘍学科	1,040,000	補 委 文部科学省
転移性肝腫瘍に対する人工知能(AI)を用いた治療効果予測の確立	村 明生(赤羽明生)	放射線医学講座	910,000	補 委 文部科学省

超高磁場MRIを用いた脳脊髄液動態評価による病態診断法の開発	藤原 俊朗	脳神経外科学講座	780,000	補委 文部科学省
超音波減衰量イメージングとエラストグラフィによるNASHの非侵襲的診断法の確立	黒田 英克	内科学講座消化器内科肝臓分野	910,000	補委 文部科学省
急性肝不全救命に向けた成熟肝細胞の至適増殖環境の解明	滝川 康裕	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,040,000	補委 文部科学省
左心耳における脳塞栓発生の危険因子同定と閉鎖術の術前治療計画システムの開発・検証	森野 禎浩	内科学講座循環器内科分野	910,000	補委 文部科学省
CMTM遺伝子群による変異EGFR陽性肺癌の分子基盤と治療戦略への展開	前門戸 任	呼吸器内科分野内科学講座	780,000	補委 文部科学省
血小板産生と機能獲得におけるAutophagyの役割の解明	古和田 周吾	内科学講座血液腫瘍内科分野	1,560,000	補委 文部科学省
感温性磁性体を用いた癌の低侵襲的温熱療法の研究	齊藤 元	呼吸器外科学講座	780,000	補委 文部科学省
Helicobacter pylori免疫応答が胃癌術後補助化学療法に及ぼす影響	肥田 圭介	医療安全学講座	1,430,000	補委 文部科学省
Circulating tumor DNA検査の臨床導入における課題点の克服	遠藤 史隆	外科学講座	1,430,000	補委 文部科学省
脳動脈血行再建術後過灌流による認知機能障害の分子生物学的メカニズムの解明	千田 光平	脳神経外科学講座	1,300,000	補委 文部科学省
卵巣明細胞癌に対するNEFHを標的とした新規治療法の開発	板持 広明	臨床腫瘍学講座	910,000	補委 文部科学省

脳内出血における大脳皮質神経受容体結合能およびアミノ酸代謝の変化と嚥下障害の関連	小守林 靖一	岩手県高度救命救急センター	910,000	補委 文部科学省
咀嚼機能障害に対する機能回復が脳機能および認知機能に及ぼす影響の検討	小林 琢也	補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野	910,000	補委 文部科学省
DPC情報と電子カルテ情報を用いた脳卒中登録システム整備に関する研究	大間々 真一	岩手県高度救命救急センター	1,430,000	補委 文部科学省
高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム	馬場 誠朗	外科学講座	325,000	補委 文部科学省
組織型に基づいた胃分化型粘膜内腫瘍のマルチオミックス解析	菅井 有	病理診断学講座	1,430,000	補委 文部科学省
DPP-4阻害薬の臨床効果とBDNF遺伝子多型との関連	高橋 義彦	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	2,210,000	補委 文部科学省
地域精神医療保健におけるハイリスク者ケアに関する包括的な教育モデルの構築	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	1,170,000	補委 文部科学省
膠芽腫におけるグリア幹細胞の高分布領域の同定に関する研究	別府 高明	脳神経外科学講座	1,430,000	補委 文部科学省
光干渉断層法イメージングを応用した新しい冠動脈石灰化モデルの作成と治療機器の開発	石田 大	内科学講座循環器内科分野	390,000	補委 文部科学省
フォンタン関連肝障害の新しい生体指標とフォンタン循環特性との関連	齋木 宏文	小児科学講座	2,210,000	補委 文部科学省
ctDNAを用いた新規大腸癌サーベイランス法の開発	大塚 幸喜	外科学講座	1,690,000	補委 文部科学省

消化器癌における症例特異的変異を用いたctDNAモニタリングの臨床的意義の検討	岩谷 岳	外科学講座	1,690,000	補委 文部科学省
既往脳卒中症状再燃に対する感染症の関連と脳拡散テンソル画像による病変可視化の試み	赤松 洋祐	脳神経外科学講座	1,560,000	補委 文部科学省
筋層非浸潤性膀胱癌におけるBCG膀胱内注入療法感受性プロファイル探索研究	加藤 陽一郎	泌尿器科学講座	1,560,000	補委 文部科学省
3D超音波画像診断装置を用いた胎児後頸部透亮域体積計測による胎児染色体疾患の評価	福島 明宗	臨床遺伝学科	3,640,000	補委 文部科学省
間葉系幹細胞の抗炎症性免疫細胞誘導能を応用した変形性顎関節症新規治療戦略の確立	間山 寿代	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	1,170,000	補委 文部科学省
人工知能(AI)を用いた過疎地域における口腔粘膜疾患の遠隔診療支援システムの開発、	大橋 祐生	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	780,000	補委 文部科学省
身近に潜む脅威「界面活性剤」～陽イオン界面活性剤中毒の科学的解明～	藤田 友嗣	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	975,000	補委 文部科学省
高齢者の身体活動意欲向上に対する活動量計の効果検証と推進プログラムの開発	下沖 収	救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野	1,560,000	補委 文部科学省
損傷形態と機能に着目した3Dイメージングによる半月板損傷の新たな治療	田島 吾郎	整形外科科学講座	1,040,000	補委 文部科学省
高度肥満症に伴う非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と外科治療後の改善機序	佐々木 章	外科学講座	1,105,000	補委 文部科学省
人工知能装備型自動呼吸機能検査システム(オートスパイロ)の開発	諏訪部 章	臨床検査医学講座	1,170,000	補委 文部科学省

リンパ節内圧測定によるリンパ節転移超早期診断とリンパ行性薬剤導入システム治療	志賀 清人	頭頸部外科学科	1,170,000	補委 文部科学省
間葉系幹細胞由来破骨細胞分化抑制ペプチドの作用機序と炎症性骨吸収抑制効果の解明	恵美子(青松恵美)	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	1,170,000	補委 文部科学省
大腸腫瘍における体細胞染色体コピー数変化の網羅的解析	永塚 真	病理診断学講座	260,000	補委 文部科学省
早期胃癌のマイクロサテライト不安定性は免疫組織化学的染色のみで同定出来るか?	杉本 亮	病理診断学講座	520,000	補委 文部科学省
筋電図パワースペクトル解析を用いた前十字靭帯再建者の大腿四頭筋筋線維組成の検討	西村 行秀	リハビリテーション 医学科	260,000	補委 文部科学省
Radiomics解析を応用させた高精度画像レジストレーションアルゴリズムの開発	家子 義朗	放射線腫瘍学科	2,080,000	補委 文部科学省
超高磁場拡散強調MRIに基づく定量的髄膜腫硬度計測法の開発	佐浦 宏明	脳神経外科学講座	2,340,000	補委 文部科学省
乳房外Paget病におけるCOX2, HDAC6の相互作用の解析	角田 加奈子	皮膚科学講座	1,300,000	補委 文部科学省
腎癌の治療標的となりうる新規癌特異分子PRELID2の機能解析	加藤 廉平	泌尿器科学講座	910,000	補委 文部科学省
歯周炎関連全身疾患としての2型糖尿病とその病態形成メカニズムの解析	中里 茉那美	歯科保存学講座歯周療法学分野	1,170,000	補委 文部科学省
間葉系幹細胞の免疫制御機構を応用した新たな難治性顎骨壊死根治療法樹立の試み	小松 祐子	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	910,000	補委 文部科学省



周術期患者における口腔Candida菌が口腔粘膜炎に及ぼす影響についての検討	佐藤 俊郎	口腔医学講座予防歯科学分野	1,040,000	補委 文部科学省
拡散尖度画像を用いた産後うつ病の脳内変化の解明と、新たな診断手法としての応用	川村 花恵	産婦人科学講座	780,000	補委 文部科学省
7T定量的磁化率マップを用いたCEA後過灌流による認知機能低下メカニズムの解明	吉田 純	脳神経外科学講座	1,820,000	補委 文部科学省
ヒト慢性貧困灌流における脳温上昇から見た大脳神経組織障害のメカニズムの解明	村上 寿孝	脳神経外科学講座	2,470,000	補委 文部科学省
次世代シーケンサーとデジタルPCRを用いた、肝細胞癌治療モニタリング法の開発	鈴木 彰子	内科学講座消化器内科肝臓分野	780,000	補委 文部科学省
フレイルを有する大動脈弁狭窄症術後患者におけるリハビリテーションの有効性	二宮 亮	内科学講座循環器内科分野	2,080,000	補委 文部科学省
胚盤胞補完法を用いた移植可能な肝臓作製技術の開発	鈴木 悠地	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,300,000	補委 文部科学省
陰茎癌における発癌メカニズムおよびヒトパピローマウイルスの関連の解明	前川 滋克	泌尿器科学講座	520,000	補委 文部科学省
表情解析ソフトウェアを用いた自己音声再建による新規代用音声の開発	東 修智	形成外科学講座	1,820,000	補委 文部科学省
抗炎症性マクロファージと間葉系幹細胞を併用した歯周病関連アテローム硬化症治療戦略	滝沢 尚希	歯科保存学講座歯周療法学分野	650,000	補委 文部科学省
各種清掃デバイス、MSC、サイトカインを用いたインプラント周囲炎の治療法の確立	横田 潤	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	780,000	補委 文部科学省

材料学的及び生物学的因子によるインプラント周囲炎の病態機序の解明と治療法の模索	菅原 志帆	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	1,820,000	補委 文部科学省
Risk Based Monitoringによる医療安全管理ツールの開発	秋山 直美	医療安全学講座	1,300,000	補委 文部科学省
小中学校のインフルエンザ対策の検証:病院感染対策の導入効果	小野寺 直人	臨床検査医学講座	390,000	補委 文部科学省
東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究	八木 淳子	神経精神科学講座	2,756,000	補委 文部科学省
岩手県におけるヘリコバクターピロリ除菌後胃癌のサーベイランスに関する研究	松本 主之	内科学講座 消化器内科消化管分野	1,000,000	補委 岩手県
岩手県における急性肝障害例の成因解明と重症化要因の解析	滝川 康裕	内科学講座 消化器内科肝臓分野	1,000,000	補委 岩手県
岩手県民の脳卒中および心臓病の発症に寄与する因子に関する検討	旭 浩一	内科学講座 腎・高血圧内科分野	1,000,000	補委 岩手県
肺腺癌遠隔転移と血管新生阻害剤による治療	前門戸 任	内科学講座 呼吸器内科分野	1,000,000	補委 岩手県
岩手県における脳神経疾患患者の自動車運転実態と運動機能、認知機能および生化学的マーカーに関する後方視的研究	前田 哲也	内科学講座 脳神経内科・老年科分野	1,000,000	補委 岩手県
インスリン抵抗性と合併症に関わる新規血液マーカーの開発	石垣 泰	内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	1,000,000	補委 岩手県
生分解性ポリマー薬物溶出ステント留置後に短期間の抗血小板剤2剤投与を受ける患者の臨床成績調査:岩手医科大学関連病院による多施設共同前向きレジストリー	森野 禎浩	内科学講座 循環器内科分野	1,000,000	補委 岩手県

高度肥満病患者におけるメタボローム解析	佐々木 章	外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
Superb Micro-vascular Imaging法を用いた術前頸動脈プラークイメージングによる内膜剥離術中の微小塞栓出現の予知	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における整形外科手術症例レジストリー構築に関する研究	土井田 稔	整形外科科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県産婦人科医療における内視鏡手術技術向上を目的とした大学病院および県立病院連携の強化	馬場 長	産婦人科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における川崎病の急性期治療の現状と合併症出現率の解明	小山 耕太郎	小児科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県におけるアトピー性皮膚炎治療に関する多施設研究	天野 博雄	皮膚科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
蛋白およびサイトカイン発現解析による移植後腎機能予測関連因子の探索～多施設共同研究による岩手県の腎移植増進に向けて～	小原 航	泌尿器科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
人工知能を応用した低被ばくCT撮影法の開発	吉岡 邦浩	放射線医学講座	1,000,000	補 委	岩手県
慢性痛患者に対する漢方薬治療の効果判定に関する研究	鈴木 健二	麻酔学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県内の小中学校における病院内感染対策の導入効果～地域におけるインフルエンザや新型コロナウイルス等の感染拡大防止に向けて～	諏訪部 章	臨床検査医学講座	1,000,000	補 委	岩手県
遠隔病理診断システムを用いた病理診断・医師教育に関わる全県にわたる病病連携体制の構築 - 岩手モデルの確立を目指して-	菅井 有	病理診断学講座	1,000,000	補 委	岩手県

敗血症死亡率低下に向けた感染症マーカーの開発	井上 義博	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県奨学金養成医師の義務履行を促進する教育プログラムの検討	下沖 収	救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野	1,000,000	補 委	岩手県
二国間交流事業(中国との共同研究(NSFC))	長谷川 豊	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌分野	1,425,000	補 委	日本学術振興会
障害者総合福祉推進事業	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	14,500,000	補 委	厚生労働省
青森県量子科学センター委託研究	小林 正和	脳神経外科学講座	1,918,770	補 委	青森県
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(免疫アレルギー疾患等実用化研究事業)	松本 主之	内科学講座 消化器内科消化器分野	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(感染症実用化研究事業)	滝川 康裕	内科学講座 消化器内科肝臓分野	1,170,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(臨床研究・治験推進研究事業)	伊藤 薫樹	内科学講座 血液腫瘍内科	2,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的先端研究開発支援事業)	前田 哲也	内科学講座 神経内科・老年科分野	4,290,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(長寿・障害総合研究事業)	前田 哲也	内科学講座 神経内科・老年科分野	18,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(腎疾患実用化研究事業)	旭 浩一	内科学講座腎・高血圧内科分野	195,000	補 委	日本医療研究開発機構

国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	櫻庭 実	形成外科学講座	260,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	秋山 有史	外科学講座	260,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	別府 高明	脳神経外科学講座	260,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(再生医療実用化研究事業)	小山 耕太郎	小児科学講座	208,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	馬場 長	産婦人科学講座	390,000	補 委	日本医療研究開発機構
				補 委	
				補 委	
				補 委	

小計5件  
合計114件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kawasaki K, Eizuka M, Kudara N, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Mesenteric phlebosclerosis complicating colonic cancer treated by endoscopic submucosal dissection	Clin J Gastroenterol. 2020 Dec;13:1183- 1188.	Case Report
2	Kawasaki K, Sugai T, Matsumoto T.	内科学講座消化器内科消 化管分野	White opaque substance under narrow-band imaging colonoscopy may hinder microvascular pattern recognition in colorectal	Dig Endosc. 2020 Jul;32:826.	Case Report
3	Toya Y, Kumei T, Yamada S, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Eosinophilic esophagitis with a severe stenosis: report of a Japanese case	Clin J Gastroenterol. 2020 Oct;13:708- 712.	Original Article
4	Toya Y, Endo M, Oizumi T, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Diagnostic algorithm of magnifying endoscopy with crystal violet staining for non- ampullary duodenal epithelial tumors	Dig Endosc. 2020 Nov;32:1066- 1073.	Original Article
5	Toya Y, Endo M, Sugai K, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Protective effect of proton pump inhibitors and potassium competitive acid blockers against post-gastric endoscopic submucosal	Scand J Gastroenterol. 2021 Feb;56:199- 204.	Original Article
6	Toya Y, Fujita Y, Sugai T, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Endoscopic submucosal dissection for adenocarcinoma arising from ectopic gastric mucosa in the cervical esophagus	Dig Liver Dis. 2020 Sep;52:1053.	Case Report
7	Urushikubo J, Yanai S, Nakamura S, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	IgA vasculitis in a patient with ulcerative colitis under infliximab: drug-induced or genetic?	Clin J Gastroenterol. 2021 Feb;14:198- 203.	Case Report
8	Yanai S, Nakamura S, Kawasaki K, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Immune checkpoint inhibitor- induced diarrhea: Clinicopathological study of 11 patients	Dig Endosc. 2020 May;32:616- 620.	Original Article
9	Yanai S, Toya Y, Nakanura S, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Patients' preference of topical therapy for ulcerative colitis in Japan. A web-based 3T Survey	Crohn Colitis 360. 2020 Apr (オンライン)	Original Article
10	Endo K, Kuroda H, Kanazawa J, et al.	内科学講座消化器内科肝 臓分野	Impact of Grip Strength in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma Treated with Lenvatinib	Cancers (Basel). 2020 Aug;12:2146.	Original Article

小計10件

11	Endo K, Sato T, Kakisaka K, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Calf and arm circumference as simple markers for screening sarcopenia in patients with chronic liver disease	Hepatology Res. 2021 Feb;51:176-189.	Original Article
12	Endo K, Sato T, Suzuki A, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Sustained virologic response by direct-acting antivirals suppresses skeletal muscle loss in hepatitis C virus infection	J Gastroenterol Hepatol. 2020 Sep;35:1602-1609.	Original Article
13	Kakisaka K, Suzuki Y, Abe H, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Early identification using the referral system prolonged the time to onset for hepatic encephalopathy after diagnosing severe acute liver	Sci Rep. 2020 Oct (オンライン)	Original Article
14	Kakisaka K, Suzuki Y, Takikawa Y.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Disease severity of acute liver injury caused by drug-induced liver injury may affect the response to corticosteroid therapy	Liver Int. 2020 Jul;40:1781.	Letter
15	Kuroda H, Nagasawa T, Fujiwara Y, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Comparing the Safety and Efficacy of Microwave Ablation Using Thermosphere(TM) Technology versus Radiofrequency Ablation for	Cancers (Basel). 2021 Mar;13:1295.	Original Article
16	Miyasaka A, Kumagai I, Masuda T, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	A 51-Year-Old Woman with Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome Associated with Carbamazepine, Reactivation of Human Herpesvirus 6, and	Am J Case Rep. 2021 Jan;22:e928587	Case Report
17	Miyasaka A, Yoshida Y, Suzuki A, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Hepatitis B virus reactivation after successful treatment of hepatitis C virus with sofosbuvir and ribavirin A case report and literature review	Medicine (Baltimore). 2020 Oct;99:e22650	Case Report
18	Takikawa Y, Kakisaka K, Suzuki Y, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Multicenter study on the consciousness-regaining effect of a newly developed artificial liver support system in acute liver failure: An on-line	Hepatology Res. 2021 Feb;51:216-226.	Original Article
19	Yonezawa T, Kakisaka K, Suzuki Y, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Excess fructose enhances the cytotoxicity of unsaturated fatty acid via reactive oxygen species production in hepatocytes	岩手医学雑誌. 2020 Aug;72:89-102.	Original Article
20	Yonezawa M, Yoshida Y, Takikawa Y.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Circular microRNA profiles as biomarkers for early stage hepatocellular carcinoma in patients infected with hepatitis B virus: a pair-matched case-	岩手医学雑誌. 2020 Jun;72:59-67.	Original Article
21	Hasegawa Y, Takahashi Y, Kezuka Y, et al.	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	Identification and Analysis of a Novel NROB1 Mutation in Late-Onset Adrenal Hypoplasia Congenita and Hypogonadism	J Endocr Soc. 2020 Nov (オンライン)	Original Article
22	Ishigaki Y, Strizek A, Aranishi T, et al.	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	Glucagon-Like Peptide-1 Receptor Agonist Utilization in Type 2 Diabetes in Japan: A Retrospective Database Analysis (JDDM 57)	Diabetes Ther. 2021 Jan;12:345-361.	Original Article

23	Tanaka F, Komi R, Nakamura M, et al.	内科学講座腎・高血圧内科分野	Additional prognostic value of electrocardiographic left ventricular hypertrophy in traditional cardiovascular risk assessments in chronic kidney	J Hypertens. 2020 Jun;38:1149-1157.	Original Article
24	Matsuura Y, Tanaka F, Segawa T, et al.	内科学講座腎・高血圧内科分野	Sex differences in the influence of elevated serum uric acid levels for cardiovascular risk in the general population with normal renal function	岩手医学雑誌. 2020 Oct;72:145-155.	Original Article
25	Ishida M, Takahashi F, Goto I, et al.	内科学講座循環器内科分野	Clinical outcomes of patients treated using very short duration dual antiplatelet therapy after implantation of biodegradable-polymer drug-	Cardiovasc Interv Ther. 2020 Oct;35:398-404.	Original Article
26	Ishida M, Terashita D, Itoh T, et al.	内科学講座循環器内科分野	Vascular Response Occurring at 3 Months After Everolimus-Eluting Cobalt-Chromium Stent Implantation in Patients With ST-Segment Elevation Myocardial Infarction vs.	Circ J. 2020 Oct;84:1941-1948.	Original Article
27	Koeda Y, Itoh T, Ishikawa Y, et al.	内科学講座循環器内科分野	A multicenter study on the clinical characteristics and risk factors of in-hospital mortality in patients with mechanical complications following acute	Heart Vessels. 2020 Aug;35:1060-1069.	Original Article
28	Morino Y, Nakajima Y.	内科学講座循環器内科分野	Structural heart intervention for prevention of embolic and hemorrhagic stroke: The new field of neurocardiology	J Cardiol. 2020 Sep;76:227-235.	Review
29	Nagai M, Itoh T, Morino Y.	内科学講座循環器内科分野	Reply to the letter by Kondo et al: Mechanisms for new-onset atrial fibrillation in patients with acute coronary syndrome	J Arrhythm. 2021 Feb; 37:269.	Letter
30	Niiyama M, Koeda Y, Suzuki M, et al.	内科学講座循環器内科分野	Coronary Flow Disturbance Phenomenon After Percutaneous Coronary Intervention Is Associated with New-Onset Atrial Fibrillation	Int Heart J. 2021 Mar;62:305-311.	Original Article
31	Ninomiya R, Orii M, Fujiwara J, et al.	内科学講座循環器内科分野	Sex-Related Differences in Cardiac Remodeling and Reverse Remodeling After Transcatheter Aortic Valve Implantation in Patients with	Int Heart J. 2020 Sep;61:961-969.	Original Article
32	Oda H, Itoh T, Sasaki W, et al.	内科学講座循環器内科分野	Cut-off value of strut-vessel distance for the resolution of acute incomplete stent apposition in the early phase using serial optical coherence	J Cardiol. 2020 Jun;75:641-647.	Original Article
33	Osaki T, Satoh M, Tanaka F, et al.	内科学講座循環器内科分野	The Value of a Cystatin C-based Estimated Glomerular Filtration Rate for Cardiovascular Assessment in a General Japanese Population:	J Epidemiol. 2020 Jun;30:260-267.	Original Article
34	Yamaya S, Morino Y, Taguchi Y, et al.	内科学講座循環器内科分野	Comparison of Archival Angiographic Findings in Patients Later Developing Acute Coronary Syndrome or Stable Angina	Int Heart J. 2020 May;61:454-462.	Original Article



35	Yoshizawa R, Owada S, Sawa Y, et al.	内科学講座循環器内科分野	Successful removal of a circular mapping catheter which perforated the pulmonary vein during cryoballoon ablation by lateral thoracotomy: a case	Eur Heart J Case Rep. 2020 Aug(オンライン)	Case Report
36	Sasaki W, Ishida M, Itoh T, et al.	内科学講座循環器内科分野	Comparison of serial optical coherence tomography imaging following aggressive stent expansion technique: insight from the MECHANISM study	Int J Cardiovasc Imaging. 2021 Feb;37:419-428.	Original Article
37	Itoh T, Mifune T, Kojima M, et al.	内科学講座循環器内科分野	A case report of stomach perforation during automatic mechanical chest compression following pulseless electrical activity due to cibenzoline	Acute Med Surg. 2021 Jan(オンライン)	Case Report
38	Saikawa H, Nagashima H, Cho K, et al.	内科学講座呼吸器内科分野	Relationship between Trace Element in Tumor and Prognosis in Lung Cancer Patients	Medicina (Kaunas). 2021 Feb;57:209.	Original Article
39	Sato H, Nagashima H, Akiyama M, et al.	内科学講座呼吸器内科分野	Analysis of bevacizumab treatments and metastatic sites of lung cancer	Cancer Treat Res Commun. 2020 Dec(オンライン)	Original Article
40	Sugai M, Murata O, Oikawa H, et al.	内科学講座呼吸器内科分野	A case of bone marrow involvement in sarcoidosis with crescentic glomerular lesions	Respir Med Case Rep. 2020 Aug(オンライン)	Case Report
41	Maemondo M.	内科学講座呼吸器内科分野	Perspective of gene therapy with replication competent viruses	Transl Lung Cancer Res. 2020 Dec;9:2511-2513.	Review
42	Maemondo M.	内科学講座呼吸器内科分野	Potential of combination therapy in EGFR mutated lung cancer	Ann Transl Med. 2020 Apr;8:518.	Letter
43	Saikawa H, Uesugi N, Sugai T, et al.	内科学講座呼吸器内科分野	Pleomorphic carcinoma of the trachea after chemoradiotherapy for laryngeal cancer	BMJ Case Rep. 2020 Oct(オンライン)	Case Report
44	Yamashita M, Utsumi Y, Yamauchi K.	内科学講座呼吸器内科分野	S100A9/CD163 Expression in Circulating Classical Monocytes in Chronic Obstructive Pulmonary Disease	COPD. 2020 Oct;17:587-594.	Original Article
45	Hirano K, Watanabe K, Akiyama M, et al.	内科学講座呼吸器内科分野	Frequency of cis and trans EGFR T790M and activation mutations in tumors treated with EGFR inhibitors	岩手医学雑誌. 2020 Jun;72:47-58.	Original Article

46	Sato T, Maeta T, Abe R, et al.	内科学講座血液腫瘍内科 分野	Successful Treatment with Nivolumab in a Patient with Metastatic Salivary Duct Carcinoma	Case Rep Oncol. 2021 Mar(オンライン)	Case report
47	Otsu A, Kowata S, Sekii Y, et al.	内科学講座血液腫瘍内科 分野	Autophagosome-rich platelets are increased in immune thrombocytopenia	岩手医学雑誌. 2020 Aug;72:103- 113.	Original Article
48	Kamada A, Shimizu M, Oura K, et al.	内科学講座脳神経内科・老 年科分野	Inhibitory Effects of P2Y12 Receptor Antagonist on PAR1- and PAR4-AP-Induced Platelet Aggregation in Patients with Stroke or TIA	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2021 Mar;30:105547	Original Article
49	Miyazawa H, Kimura M, Yonezawa H, et al.	内科学講座脳神経内科・老 年科分野	Sporadic Triple A (Allgrove) Syndrome with Novel Tandem Mutations	Intern Med. 2021 Mar;60:799- 802.	Case Report
50	Miyazawa H, Terayama Y.	内科学講座脳神経内科・老 年科分野	Dashcam-captured moment of right hemispheric stroke	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 Sep;29:105094.	Case Report
51	Shimizu M, Natori T, Tsuda K, et al.	内科学講座脳神経内科・老 年科分野	Thrombin-induced platelet aggregation -effect of dabigatran using automated platelet aggregometry	Platelets. 2020 Apr;31:360- 364.	Original Article
52	Tsuda K, Natori T, Shimizu M, et al.	内科学講座脳神経内科・老 年科分野	Novel antithrombotic effects of dabigatran in patients with non-valvular atrial fibrillation	Thromb Res. 2020 May;189:1-4.	Original Article
53	Yoshida M, Oura K, Shimizu M, et al.	内科学講座脳神経内科・老 年科分野	Determination of the reference range of platelet aggregation using a new automatic coagulation analyzer and visualization of platelet function data	Thromb Res. 2020 Oct;194:95- 97.	Original Article
54	Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, et al.	外科学講座	Safety of thoracoscopic esophagectomy after induction chemotherapy for locally advanced unresectable esophageal squamous cell	Asian J Endosc Surg. 2020 Apr;13:152- 159.	Original Article

55	Akiyama Y, Sasaki A, Fujii R, et al.	外科学講座	Efficacy of enhanced prehabilitation for patients with esophageal cancer undergoing esophagectomy	Esophagus. 2021 Jan;18:56-64.	Original Article
56	Akiyama Y, Sasaki A, Iwaya T, et al.	外科学講座	Feasibility of totally laparoscopic pylorus-preserving gastrectomy with intracorporeal gastro-gastrostomy for early gastric	World J Surg Oncol.2020 Jul (オンライン)	Original Article
57	Endo F, Akiyama Y, Onishi M, et al.	外科学講座	Primary esophageal malignant melanoma successfully treated with anti-PD-1 antibody for retroperitoneal recurrence after esophagectomy: A case	Int J Surg Case Rep. 2020 (オンライン)	Case Report
58	Endo F, Akiyama Y, Onishi M, et al.	外科学講座	Cutaneous metastasis from esophageal basaloid squamous cell carcinoma: A case report	Int J Surg Case Rep. 2021 Mar (オンライン)	Case Report
59	Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Surgical outcomes of 118 complex laparoscopic liver resections: a single-center experience	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2020 Dec;27:942-949.	Original Article
60	Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Anterior approach for pure laparoscopic donor right hepatectomy	Surg Endosc. 2020 Oct;34:4677-4678.	Original Article
61	Ishida K, Ohnuki K, Usami S, et al.	外科学講座	A survey on the current status of clinical resources for diagnosis and treatment of breast cancer in rural hospitals of the Tohoku region in Japan	Breast Cancer. 2021 Jan;28:161-167.	Original Article
62	Iwaya T, Endo F, Takahashi F, et al.	外科学講座	Frequent Tumor Burden Monitoring of Esophageal Squamous Cell Carcinoma With Circulating Tumor DNA Using Individually Designed	Gastroenterology. 2021 Jan;160:463-465.e4.	Original Article
63	Matsuo T, Otsuka K, Kimura T, et al.	外科学講座	Laparoscopic colectomy for persistent descending mesocolon in sigmoid colon cancer: A case report	Int J Surg Case Rep. 2021 Jan (オンライン)	Case Report
64	Nakamura H, Ishida K, Umemura A, et al.	外科学講座	Effects of Laparoscopic Sleeve Gastrectomy on Non-Alcoholic Steatohepatitis and Liver Fibrosis in Japanese Patients with Severe Obesity	Obes Surg. 2020 Jul;30:2579-2587.	Original Article
65	Sasaki N, Iwaya T, Akiyama Y, et al.	外科学講座	Esophageal carcinosarcoma in which the sarcomatous element has sloughed off: A case report	Int J Surg Case Rep. 2020 (オンライン)	Case Report
66	Sasaki N, Iwaya T, Chiba T, et al.	外科学講座	Analysis of mutational and proteomic heterogeneity of gastric cancer suggests an effective pipeline to monitor post-treatment tumor burden	PLoS One. 2020 Oct (オンライン)	Original Article

67	Umemura A, Akiyama Y, Iwaya T, et al.	外科学講座	Super-late pulmonary recurrence after radical esophagectomy for esophageal squamous cell carcinoma	Int J Surg Case Rep. 2020 (オンライン)	Case Report
68	Umemura A, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Portal bifurcation reconstruction using own hepatic vein grafts due to portal vein anomaly of the living donor for the patient	Ann Hepatobiliary Pancreat Surg. 2020 Nov;24:533-538	Case Report
69	Umemura A, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Laparoscopic Left Hepatectomy with Middle Hepatic Vein Resection for Hepatocellular Carcinoma with Extrahepatic Portal Vein	Am J Case Rep. 2021 Mar (オンライン)	Case Report
70	Umemura A, Nitta H, Suto T, et al.	外科学講座	Indocyanine green fluorescence imaging via endoscopic nasal biliary drainage during laparoscopic deroofting of liver cysts	J Minim Access Surg. 2021 Jan-Mar;17:131-134.	Case Report
71	Umemura A, Sasaki A, Nitta H, et al.	外科学講座	Prognostic factors and a new preliminary scoring system for remission of type 2 diabetes mellitus after laparoscopic sleeve gastrectomy	Surg Today. 2020 Sep;50:1056-1064.	Original Article
72	Yaegashi M, Otsuka K, Kimura T, et al.	外科学講座	Early renal dysfunction after temporary ileostomy construction	Surg Today. 2020 Jul;50:703-710.	Original Article
73	Akamatsu Y, Gomez-Paz S, Vergara-Garcia D, et al.	脳神経外科学講座	Role of Surgical Intervention for Intracranial Dural Arteriovenous Fistulas With Cortical Venous Drainage in an Endovascular Era: A Case	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2021 Mar;20:364-372	Case Report
74	Akamatsu Y, Kubo Y, Chida K, et al.	脳神経外科学講座	Combined Surgical and Endovascular Treatment of an Intraorbital Arteriovenous Fistula Drained Into a Basal Vein of Rosenthal: A Technical	World Neurosurg. 2020 Sep;141:15-19.	Case Report
75	Chida K, Shimada Y, Fujimoto K, et al.	脳神経外科学講座	Identification of the Distal End of Carotid Plaque Using 3-Dimensional Fast Spin Echo T1-Weighted Magnetic Resonance Plaque Imaging	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 Apr;29:104680.	Original Article
76	Fujimoto K, Uwano I, Sasaki M, et al.	脳神経外科学講座	Acetazolamide-Loaded Dynamic 7T MR Quantitative Susceptibility Mapping in Major Cerebral Artery Steno-Occlusive Disease:	AJNR Am J Neuroradiol. 2020 May;41:785-791.	Original Article
77	Fujiwara S, Mori Y, de la Mora DM, et al.	脳神経外科学講座	Feasibility of IVIM parameters from diffusion-weighted imaging at 11.7T MRI for detecting ischemic changes in common carotid artery	Sci Rep. 2020 May (オンライン)	Original Article
78	Kubo Y, Koji T, Murakami T, et al.	脳神経外科学講座	Long-Term Outcomes of Cerebral Blood Flow and Neurotransmitter Receptor Function on Iodine-123-Iomazenil Single-Photon	World Neurosurg. 2020 Nov;143:e199-e205.	Original Article

79	Sato S, Fujiwara S, Miyoshi K, et al.	脳神経外科学講座	Improvement in gait function after carotid endarterectomy is associated with postoperative recovery in perfusion and neurotransmitter receptor	Nucl Med Commun. 2020 Nov;41(11):1161-1168. doi: 10.1097/MNM.0000000000000000	Original Article
80	Takahashi T, Fujiwara S, Igarashi S, et al.	脳神経外科学講座	Comparison of Subjective and Objective Assessments on Improvement in Gait Function after Carotid Endarterectomy	Sensors (Basel). 2020 Nov (オンライン)	Original Article
81	Yoshida J, Yamashita F, Sasaki M, et al.	脳神経外科学講座	Adverse effects of pre-existing cerebral small vessel disease on cognitive improvement after carotid endarterectomy	Int J Stroke. 2020 Aug;15:657-665.	Original Article
82	Tsuji S, Ikai A, Oyama K, et al.	心臓血管外科学講座	Adult case of tetralogy of Fallot associated with atrioventricular septal defect	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Feb;69:360-363.	Case Report
83	Kanno H, Deguchi H, Tomoyasu M, et al.	呼吸器外科学講座	Prediction formula for predicted diffusion capacity of lung for carbon monoxide in pulmonary surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Dec;68:1432-1438.	Original Article
84	Tomoyasu M, Deguchi H, Kudo S, et al.	呼吸器外科学講座	Surgical treatment strategies for refractory unresectable pulmonary fistula	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Dec;68:1600-1602.	Case report
85	Tomoyasu M, Deguchi H, Shigeeda W, et al.	呼吸器外科学講座	Pitfall of left anterior segmental pulmonary artery (A(3)) dissection in left upper lobectomy. A technical note	Asian J Surg. 2020 Aug;43:853-854.	Letter
86	Kaneko Y, Utsushikawa Y, Deguchi H, et al.	呼吸器外科学講座	Correlation with spontaneous pneumothorax and weather change, especially warm front approaching	J Thorac Disease 2021 Mar;13:1584-1591.	Original Article
87	Kikuchi Y, Sato K, Mimata Y, et al.	整形外科科学講座	Ulnar facet locking screw locations of volar locking plates placed without flexor pollicis longus tendon contact: A cadaver study	Orthop Traumatol Surg Res. 2020 Apr;106:365-370.	Original Article
88	Sato K, Mimata Y, Takahashi G, et al.	整形外科科学講座	Validity of the distance between the anterior humeral line and capitellum as a quantitative measure of supracondylar humeral fracture	Injury. 2020 Jun;51:1321-1325.	Original Article
89	Sato K, Murakami K, Mimata Y, et al.	整形外科科学講座	Supraretinacular endoscopic carpal tunnel release: A safe alternative method for treatment of carpal tunnel syndrome	J Orthop Surg (Hong Kong). 2021 Jan-Apr;29:2309499021993407.	Original Article
90	Tanifuji K, Tajima G, Yan J, et al.	整形外科科学講座	Three-dimensional computed tomography confirmed that the meniscal root attachments and meniscofemoral ligaments are morphologically consistent	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2020 Nov;28:3450-3456	Original Article

小計11件

91	Abe Y, Murakami H, Endo H, et al.	整形外科科学講座	Quantification of gait features in patients with lumbar spinal stenosis using an acceleration sensor	岩手医学雑誌.2020 Oct;72:133-144.	Original Article
92	Kagabu M, Yoshino N, Saito T, et al.	産婦人科学講座	The efficacy of a third-generation oncolytic herpes simplex viral therapy for an HPV-related uterine cervical cancer model	Int J Clin Oncol. 2021 Mar;26:591-597.	Original Article
93	Kanasugi T, Sasaki Y, Haba G, et al.	産婦人科学講座	Successive monochorionic twin pregnancies after assisted reproductive technology complicated by repeated twin reversed arterial perfusion	Congenit Anom (Kyoto). 2020 May;60:89-90.	Case Report
94	Sasaki Y, Ito K, Fukumoto K, et al.	産婦人科学講座	Cerebral diffusion kurtosis imaging to assess the pathophysiology of postpartum depression	Sci Rep. 2020 Sep (オンライン)	Original Article
95	Shoji T, Kikuchi K, Kogita H, et al.	産婦人科学講座	New treatment strategy for ovarian cancer with a BRCA gene mutation	European Journal of Gynaecological Oncology. 2021 Feb;42:1-9	Review
96	Shoji T, Takatori E, Kagabu M, et al.	産婦人科学講座	Relationship between usefulness of irinotecan and pegylated liposomal doxorubicin therapy and the UGT1A1 genotype in patients	European Journal of Gynaecological Oncology. 2020 Jun;41:380-	Original Article
97	Soma R, Shoji T, Sato C, et al.	産婦人科学講座	Successful treatment with CPT-11 plus S-1 therapy in a patient with primary signet-ring cell carcinoma of the uterine cervix: A case report	European Journal of Gynaecological Oncology. 2020 Dec;41:868-	Case Report
98	Takeuchi S, Kagabu M, Shoji T, et al.	産婦人科学講座	Anti-cancer immunotherapy using cancer-derived multiple epitope-peptides cocktail vaccination clinical studies in patients with	Oncoimmunology. 2020 Nov;9:1838189	Original Article
99	Akasaka M, Kamei A, Ito J, et al.	小児科学講座	Turner Syndrome Associated With Refractory Seizures and Intellectual Disability: A Case Study	Cureus. 2020 Nov (オンライン)	Case Report
100	Saiki H, Kawada K, Kuwata S, et al.	小児科学講座	Echocardiogram Unmasked Hemodynamic Advantage of Atrial Pacing in Securing Ventricular Preload in a Fontan Patient with Junctional	Int Heart J. 2021 Mar;62:448-452.	Case Report
101	Sotodate G, Oyama K, Saiki H, et al.	小児科学講座	Comparing risk factors associated with the late detection of critical congenital heart disease at different facility levels	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Mar;47:961-967.	Original Article
102	Ito A, Fujita Y, Wada Y, et al.	小児科学講座	A relatively higher concentration of zinc and strontium within normal levels in breast milk is associated with higher growth rates among	岩手医学雑誌. 2020 Dec;72:205-215.	Original Article

小計12件

103	Kaneshiro S, Hiraumi H, Sato H.	耳鼻咽喉科学講座	Central processing of speech sounds and non-speech sounds with similar spectral distribution: An auditory evoked potential study	Auris Nasus Larynx. 2020 Oct;47:727-733.	Original Article
104	Kurosaka D, Imaizumi T, Kizawa, J.	眼科学講座	Time Course of Lens Epithelial Cell Behavior in Rabbit Eyes following Lens Extraction and Implantation of Intraocular Lens	J Ophthalmol. 2021 Jan(オンライン)	Original Article
105	Tanaka U, Kurosaka D, Murai K, et al.	眼科学講座	Rho/myocardin-related transcription factor A(MRTF-A) pathway plays an important role in TGF- $\beta$ -induced epithelial mesenchymal	岩手医学雑誌. 2020 Dec;72:217-230.	Original Article
106	Mori S, Tamai K, Amano H.	皮膚科学講座	Extragenital lichen sclerosus successfully treated by topical maxacalcitol/betamethasone butyrate propionate	Clin Exp Dermatol. 2020 Jul;45:629-630.	Case Report
107	Nakagawa M, Hanada M, Amano H.	皮膚科学講座	A case of perioperative allergic reaction caused by rocuronium and atropine	JAAD Case Rep. 2020 Nov(オンライン)	Case Report
108	Nakagawa M, Hanada M, Inomata N, et al.	皮膚科学講座	A case of a gibberellin-regulated protein-positive patient allergic to various fruits	Eur J Dermatol. 2021 Feb;31:88-90.	Original Article
109	Onishi M, Tsunoda K, Maeda F, et al.	皮膚科学講座	Angiosarcoma of the Auricle in a Patient with Xeroderma Pigmentosum Variant	Case Rep Dermatol. 2020 Aug(オンライン)	Case Report
110	Tsunoda K, Onishi M, Miura S, et al.	皮膚科学講座	Effectiveness of Combined Anti-programmed Death-ligand 1 Therapy and Radiotherapy for Metastatic Merkel Cell Carcinoma: Two	Acta Derm Venereol. 2020 Aug;100:adv00237.	Original Article
111	Watabe D, Amano H.	皮膚科学講座	Successful treatment of adalimumab-induced paradoxical psoriatic arthritis with risankizumab	Eur J Dermatol. 2020 Oct;30:611-612.	Original Article
112	Watabe D, Amano H.	皮膚科学講座	Development of psoriasis during docetaxel therapy in a patient with non-small-cell lung cancer	J Dermatol. 2020 Dec;47:e427-e428.	Case Report
113	Abe T, Onoda M, Matsuura T, et al.	泌尿器科学講座	Evaluation of a new measurement method of indoxyl sulfate in hemodialysis patients	Ther Apher Dial. 2021 Feb;25:44-49.	Original Article
114	Hisano M, Kato R, Itamochi H, et al.	泌尿器科学講座	Rapid progression of recurrent disease in a patient with renal cell carcinoma with vaginal metastasis	IJU Case Rep. 2020 Jul(オンライン)	Case Report

小計12件

115	Ikarashi D, Kato Y, Kato R, et al.	泌尿器科学講座	Inflammatory markers for predicting responses to nivolumab in patients with metastatic renal cell carcinoma	Int J Urol. 2020 Apr;27:350- 351.	Letter
116	Ikarashi D, Kitano S, Ishida K, et al.	泌尿器科学講座	Complete Pathological Response to Neoadjuvant Pembrolizumab in a Patient With Chemoresistant Upper Urinary Tract Urothelial	Front Oncol. 2020 Sep(オン ライン)	Case Report
117	Kato R, Ikarashi D, Matsuura T, et al.	泌尿器科学講座	Analyses of Nivolumab Exposure and Clinical Safety Between 3-mg/kg Dosing and 240-mg Flat Dosing in Asian Patients with Advanced Renal	Transl Oncol. 2020 Jun(オン ライン)	Original Article
118	Kato R, Jinnouchi N, Tuyukubo T, et al.	泌尿器科学講座	TIM3 expression on tumor cells predicts response to anti- PD-1 therapy for renal cancer	Transl Oncol. 2021Jan(オンラ イン)	Original Article
119	Tamura D, Jinnouchi N, Abe M, et al.	泌尿器科学講座	Prognostic outcomes and safety in patients treated with pembrolizumab for advanced urothelial carcinoma: experience in real-world	Int J Clin Oncol. 2020 May;25:899- 905.	Original Article
120	Takahashi J, Abe T, Kaneko M, et al.	泌尿器科学講座	Influence of unstable psychological condition on the quality of life of hemodialysis patients	Renal Replacement Therapy. 2020 April(オンライ ン)	Original Article
121	Kikuchi D, Kato Y, Takayama M, et al.	泌尿器科学講座	A prospective study on the association between post- voiding residual volume and quality of life during bacille Calmette-Guerin (BCG)	J Clin Urol. 2020 August (オンライン)	Original Article
122	Ito A, Sugimura J, Matsuura T, et al.	泌尿器科学講座	Plasma cytokine levels before and 1 year after successful living-donor renal transplantation	Renal Replacement Therapy. 2020 Nov(オンライ ン)	Original Article
123	Ono S, Yagi J, Fukumoto K, et al.	神経精神科学講座	Factors related to long-term outcomes of children's behavior problems after the Great East Japan Earthquake and Tsunami: Follow-up	岩手医学雑誌. 2020 Oct;72:157- 170.	Original Article
124	Honta E, Fukumoto K, Sanjo K, et al.	神経精神科学講座	Characteristics and prognosis of patients with bipolar disorder who had been treated for depression: a pilot study	岩手医学雑誌. 2020 Aug;72:115- 126.	Original Article
125	Kato K, Kawashima K, Suzuki T, et al.	放射線医学講座	Embolization of medium-sized vessels with the penumbra occlusion device: evaluation of anchoring function	CVIR Endovasc. 2020 May(オン ライン)	Original Article
126	Nakamura R, Sugawara J, Yamaguchi S, et al.	放射線医学講座	Stereotactic body radiotherapy with a single isocentre for multiple pulmonary metastases	BJR Case Rep. 2020 Jun(オン ライン)	Case Report

小計11件



127	Nakayama M, Kato K, Yoshioka K, et al.	放射線医学講座	Coagulopathy-related soft tissue hematoma: a comparison between computed tomography findings and clinical severity	Acta Radiol Open. 2020 May (オンライン)	Original Article
128	Orii M, Tanimoto T, Ota S, et al.	放射線医学講座	Diagnostic accuracy of cardiac magnetic resonance imaging for cardiac sarcoidosis in complete heart block patients implanted with magnetic resonance-	J Cardiol. 2020 Aug;76:191-197.	Original Article
129	Yoshida S, Sato E, Oda Y, et al.	放射線医学講座	Triple-sensitivity high-spatial-resolution X-ray computed tomography using a cadmium-telluride detector and its beam-hardening effect	Appl Radiat Isot. 2020 May;159:109089.	Original Article
130	Takagi H, Yoshizawa M, Orii M, et al.	放射線医学講座	Additive Value of CT to Age, Aortic Diameter, and Echocardiography in Diagnosis and Classification of Bicuspid Aortic Valve in Patients with	Radiol Cardiothorac Imaging. 2021 Feb (オンライン)	Original Article
131	Takahashi G, Kan S, Hoshikawa K, et al.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	Endotoxin contamination of single-use sterile surgical gloves	Future Microbiol. 2020 Oct;15:1425-1430.	Original Article
132	Takahashi G, Yokofuji H, Terayama M, et al.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	Course of matrix metalloproteinase-1 and pulmonary oxygenation in acute respiratory distress syndrome caused by oral	Acute Med Surg. 2020 Aug (オンライン)	Case Report
133	Morino G, Takahashi G, Kan SO, et al.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	Antibody-mediated soluble CD14 stabilization prevents agitation-induced increases in presepsin levels in blood component specimens	Biotechniques. 2021 Mar;70:160-166.	Original Article
134	Takahashi G, Shibata S.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	Study of usefulness of low-dose IgG for patients with septic disseminated intravascular coagulation	Biomark Med. 2020 Sep;14:1189-1196.	Original Article
135	Takahashi G, Inada K, Sato K, et al.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	A dextran-based warming method for preparing leukocyte-rich plasma and its clinical application for endotoxin assay	Biotechniques. 2020 Jun;68:300-304.	Case Report
136	Fujita Y, Onuma Y, Usui K, et al.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	A case report of a patient with hidden caffeine intoxication	中毒研究.2020 Sep;33:213-215.	Case Report
137	Nonoguchi M, Takahashi G, Kan S, et al.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	Development of new endotoxin measurement assay using bioluminescence method	岩手医学雑誌. 2020 Dec;72:181-189.	Original Article
138	Omama S, Komoribayashi N, Inoue Y, et al.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	Occurrence of Cerebrovascular Diseases Decreased after the Great East Japan Earthquake and Tsunami of 2011	Cerebrovasc Dis Extra. 2020 Sep-Dec;10:105-115.	Original Article

139	Eizuka M, Osakabe M, Sato A, et al.	病理診断学講座	Dysregulation of microRNA expression during the progression of colorectal tumors	Pathol Int. 2020 Sep;70:633-643.	Original Article
140	Fujita Y, Uesugi N, Sugimoto R, et al.	病理診断学講座	Analysis of clinicopathological and molecular features of crawling-type gastric adenocarcinoma	Diagn Pathol. 2020 Sep(オンライン)	Original Article
141	Sasaki N, Ishida K, Yanagawa N, et al.	病理診断学講座	Loss of CD38 expression in myelomatous pleural effusion in a patient with myeloma treated with daratumumab: Report of a case	Diagn Cytopathol. 2021 Jan;49:168-170.	Letter
142	Sato C, Osakabe M, Nagasawa T, et al.	病理診断学講座	Genome-wide analysis of microRNA to evaluate prognostic markers in isolated cancer glands and surrounding stroma in high-grade serous	Oncol Lett. 2020 Dec;20:338.	Original Article
143	Sugai T, Uesugi N, Habano W, et al.	病理診断学講座	The clinicopathological and molecular features of sporadic gastric foveolar type neoplasia	Virchows Arch. 2020 Dec;477:835-844.	Original Article
144	Sugimoto R, Habano W, Yanagawa N, et al.	病理診断学講座	Molecular alterations in gastric cancer and the surrounding intestinal metaplastic mucosa: an analysis of isolated glands	Gastric Cancer. 2021 Mar;24:382-391.	Original Article
145	Sugimoto R, Yanagawa N, Osakabe M, et al.	病理診断学講座	Epiploic appendage infarction of the sigmoid colon	Pathol Int. 2020 Nov;70:918-919.	Letter
146	Tanaka Y, Eizuka M, Uesugi N, et al.	病理診断学講座	Traditional serrated adenoma has two distinct genetic pathways for molecular tumorigenesis with potential neoplastic progression	J Gastroenterol. 2020 Sep;55:846-857.	Original Article
147	Tsuyukubo T, Ishida K, Osakabe M, et al.	病理診断学講座	Comprehensive analysis of somatic copy number alterations in clear cell renal cell carcinoma	Mol Carcinog. 2020 Apr;59:412-424.	Original Article
148	Uesugi N, Sugai T, Sugimoto R, et al.	病理診断学講座	Clinicopathological and Molecular Findings of Differentiated-Type Minute Gastric Intramucosal Neoplasia	Digestion. 2020 May;101:287-297.	Original Article
149	Yanagawa N, Sato A, Nishiya M, et al.	病理診断学講座	Pulmonary epithelial-myoepithelial carcinoma without AKT1, HRAS or PIK3CA mutations: a case report	Diagn Pathol. 2020 Aug(オンライン)	Case Report

小計11件

150	Yanagawa N, Shiono S, Endo M, et al.	病理診断学講座	Programmed death ligand 1 protein expression is positively correlated with the solid predominant subtype, high MIB-1 labeling index, and p53 expression and negatively correlated with epidermal	Hum Pathol. 2021 Feb;108:12-21.	Original Article
151	Kikuchi K, Nakamura R, Segawa T, et al.	放射線腫瘍学科	Modified Glasgow prognostic score can predict survival of muscle invasive bladder cancer patients after radiotherapy	J Radiat Res. 2020 Jul;61:616-621.	Original Article
152	Shiga K, Nibu K, Fujimoto Y, et al.	頭頸部外科学科	Multi-institutional Survey of Squamous Cell Carcinoma of the External Auditory Canal in Japan	Laryngoscope. 2021 Mar;131:E870-E874.	Original Article
153	Akiyama N, Akiyama T, Hayashida K, et al.	医療安全学講座	Incident reports involving hospital administrative staff: analysis of data from the Japan Council for Quality Health care nationwide database	BMC Health Serv Res. 2020 Nov (オンライン)	Original Article
154	Akiyama N, Akiyama T, Kouno R, et al.	医療安全学講座	Japanese nurses' competency on different clinical ladder levels: Using a mixed-methods approach	日本看護評価学会誌. 2020 Jul;10:1-11.	Original Article
155	Murai O, Chiba T, Sasaki DS, et al.	歯科保存学講座歯周療法学分野	Serum and saliva cytokine levels in a patient with brain abscess due to periodontitis.	Med Res Arch. 2020 Apr;8:1-16.	Case Report
156	Kihara H, Hatakeyama W, Komine F, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Accuracy and practicality of intraoral scanner in dentistry: A literature review	J Prosthodont Res. 2020 Apr;64:109-113.	Review
157	Sato H, Kobayashi T, Nomura T, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Oral mucosa pressure caused by mandibular implant overdenture with different types of attachments	J Prosthodont Res. 2020 Apr;64:145-151.	Original Article
158	Kihara H, Takafuji K, Hatakeyama W, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Sinus floor elevation using tricalcium phosphate plate	J Oral Sci. 2020 Apr;62:242-244.	Original Article
159	Kogi S, Onodera K, Tsunoda N, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Cystadenoma of the tongue: report of a case with long-term follow-up	J Surg Case Rep. 2020 Aug (オンライン)	Case Report
160	Komatsu Y, Miyamoto I, Ohashi Y, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Primary epithelioid angiosarcoma originating from the mandibular gingiva: a case report of an extremely rare oral lesion	World J Surg Oncol. 2020 Oct (オンライン)	Case Report

小計11件

161	Ohashi Y, Tsunoda N, Onodera K, et al.	口腔顎顔面再建学講座口 腔外科学分野	Hypopituitarism manifesting after invasive dental treatment in a patient with carcinoma of the tongue: a case report	BMC Oral Health. 2020 Apr (オンライン)	Case Report
162	Onodera K, Ohashi Y, Tsunoda N, et al.	口腔顎顔面再建学講座口 腔外科学分野	Computer-assisted surgery to treat fracture of an atrophic mandible	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2020 Jul;32:303- 306.	Case Report
163	Tsunoda N, Kawai T, Onodera K, et al.	口腔顎顔面再建学講座口 腔外科学分野	Methemoglobinemia due to prilocaine use during jaw deformity surgery: A case report	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2020 Sep;32:377- 379	Case Report
164	Tsunoda N, Ohashi Y, Onodera K, et al.	口腔顎顔面再建学講座口 腔外科学分野	Squamous cell carcinoma of the buccal mucosa with multiple distant metastases	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2020 Nov;32:488- 492	Case Report
165	Hirano T, Saito D, Yamada H.	口腔顎顔面再建学講座口 腔外科学分野	TGF- $\beta$ 1 induces N-cadherin expression by upregulating Sox9 expression and promoting its nuclear translocation in human oral squamous cell	Oncol Lett. 2020 Jul;20:474- 482.	Original Article
166	Sato K, Chikuda M, Miyamae Y, et al.	口腔顎顔面再建学講座歯 科麻酔学分野	Cardiopulmonary Arrest with Airway Obstruction due to Postoperative Bleeding	Case Rep Dent. 2021 Jan (オンライン)	Case report
167	Tanaka R.	口腔顎顔面再建学講座歯 科放射線学分野	Subtraction Computed Tomographic Angiography and Ultra-high-resolution Computed Tomography: New Era of Vascular Imaging	Radiat Environ Med. 2020 Aug;9:56-61.	Review
168	Matsumoto S, Yokota S, Kyakumoto S, et al.	口腔保健育成学講座歯科 矯正学分野	Adenosine 5'-triphosphate strengthens receptor tyrosine kinase-mediated suppression of fibrogenic activity in fibroblast-like synoviocytes	岩手医科大学 歯学雑誌. 2020 Jun;45:46-57.	Original Article
169	Chiba T, Ito K, Mori F, et al.	口腔医学講座関連医学分 野	Detection of microstructural white matter alterations in functional gastrointestinal disorders assessed by diffusion kurtosis imaging	JGH Open. 2020 Jun (オン ライン)	Original Article
170	Chiba T, Ohashi Y, Tsunoda N, et al.	口腔医学講座関連医学分 野	Radiation Esophagitis in a Patient with Oral Carcinoma and Bone Metastasis	Case Rep Gastroenterol. 2020 Sep (オン ライン)	Case Report
171	Onodera R, Nihei S, Kimura T, et al.	薬剤部	Severe proteinuria during the administration of bevacizumab plus mFOLFOX6 in a colorectal cancer patient after kidney transplantation: a case	J Pharm Health Care Sci. 2020 Sep (オンライン ン)	Case Report

小計10件  
計171件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の審査事項、申請区分、開催日、審査方法、承認後の報告、記録の管理及び公開、申請書受付から審査結果までの流れ等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 学校法人岩手医科大学の職員等が行う産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理（マネジメント）することによって、大学及び職員等の社会的信用及び名誉の保持及び社会貢献の推進を図ることを目的とする。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 研究倫理の歴史と被験者保護、プロトコールの作成について 医学部倫理委員会の倫理審査の現状、臨床試験の起案から実行まで、臨床研究の実施における各種手続きについて	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医学部卒業後2年間の臨床研修を修了した者を対象に、認定医および専門医等資格取得のための修練を実施している。各領域(科)に定める修練期間が異なるが、概ね次の3通りのパターンを設けており、各々のライフプランに合わせた研修を行う。

各科の研修は、自院のほか院外(連携)認定施設においても行われ、専門医等取得に向け各領域の定められた症例(数)の臨床経験、論文の執筆・発表および学会参加等、種々の研修を積む。

- ① 臨床研修修了後、専門医取得に向けた専門研修を実施  
(概ね、医学部卒業後6年目以降に専門医を取得)
- ② 臨床研修中から社会人大学院へ進学し、博士号の取得と専門研修を並行して実施  
(医学部卒業後4年で博士号、6年目以降に専門医を取得)
- ③ 臨床研修修了後、社会人大学院へ進学と同時に専門研修を実施  
(医学部卒業後6年で博士号、6年目以降に専門医を取得)

研修プログラムの例として、内科専門研修プログラム(研修期間:3年間)における研修例は以下のとおりである。各領域(科)に定められた所定の研修を修了した後、認定医や専門医試験の合格を経て、その資格を取得することとなる。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	ローテーション	内科Ⅰ(又は内科Ⅱ)					総合診療	救急	内科Ⅱ(又は内科Ⅰ)				
		月1回~2回のプライマリケア当直(大学で研修の場合は内科の一次二次救急当直)を行う											
	目標	基幹施設での研修 1年目にJMECCを完結 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約を10以上登録											
2年次	ローテーション	内科Ⅰ(又は内科Ⅱ)					内科Ⅱ(又は内科Ⅰ)						
		基幹施設での研修											
	目標	45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
3年次	ローテーション	選択内科(Subspecialty)や必要な疾患群を経験するための研修											
		連携施設での研修											
	目標	70疾患群を経験し200例以上を登録 2年次までに登録された病歴要約の改訂 内科専門医取得のための筆記試験											

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	109 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松本 主之	消化管内科	教授	35年	
滝川 康裕	肝臓内科	教授	38年	
石垣 泰	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	27年	
旭 浩一	腎・高血圧内科	教授	28年	
森野 禎浩	循環器内科	教授	27年	
前門戸 任	呼吸器・アレルギー・膠原病内科	教授	31年	
伊藤 薫樹	血液腫瘍内科	教授	29年	
前田 哲也	脳神経内科・老年科	教授	27年	
佐々木 章	外科	教授	32年	
小笠原 邦昭	脳神経外科	教授	36年	
金 一	心臓血管外科	教授	25年	
齊藤 元	呼吸器外科	教授	32年	
土井田 稔	整形外科	教授	36年	
櫻庭 実	形成外科	教授	30年	
馬場 長	産婦人科	教授	22年	
赤坂 真奈美	小児科	教授	27年	
佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科	教授	31年	
志賀 清人	頭頸部外科	教授	38年	
黒坂 大次郎	眼科	教授	33年	
天野 博雄	皮膚科	教授	27年	
小原 航	泌尿器科	教授	23年	
大塚 耕太郎	精神神経科	教授	23年	
吉岡 邦浩	放射線診断科	教授	35年	
有賀 久哲	放射線治療科	教授	31年	
鈴木 健二	麻酔科	教授	35年	
井上 義博	救急科	教授	38年	
諏訪部 章	臨床検査科	教授	36年	
菅井 有	病理診断科	教授	36年	
西村 行秀	リハビリテーション科	教授	24年	
下沖 収	総合診療科	教授	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 小笠原 邦昭
管理担当者氏名	病院事務部長 遠藤利明 及び 各所属総括課長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ又は薬剤部記録管理室
		手術記録	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ又は各診療科外来
		看護記録	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
		検査所見記録	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ等又は各診療科外来
		エックス線写真	診療記録保管室、放射線システムサーバ又は各診療科外来
		紹介状	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
		従業者数を明らかにする帳簿	人事職員課
		高度の医療の提供の実績	病院企画課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院企画課
		高度の医療の研修の実績	医師卒後臨床研修センター
		閲覧実績	病院企画課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院企画課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院企画課
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	紙又は電子媒体で管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部、薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療福祉相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室、医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	病院企画課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院企画課		

・紙又は電子媒体で管理している。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 遠藤 利明	
閲覧担当者氏名	病院事務部次長 佐藤 嘉英 病院企画課総括課長 野中 尊史 病院総務課総括課長 山口 順之 医事課総括課長 小野寺 敬信 人事職員課総括課長 佐々木 寛人	
閲覧の求めに応じる場所	諸記録閲覧室	
閲覧の手続の概要		
①諸記録閲覧にかかる案内文書を、病院正面玄関に掲示している。 ②諸記録閲覧の求めがあった場合は、諸記録閲覧室にて対応を行う。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本理念</li> <li>(2) 医療安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>(3) 医療安全管理における職員の責務</li> <li>(4) 医療安全管理組織体制の確率</li> <li>(5) 医療安全管理のための職員の教育・研修</li> <li>(6) 医療の安全確保を目的とした改善のための方策</li> <li>(7) 医療事故発生時の対応</li> <li>(8) 医療事故等調査委員会の設置</li> <li>(9) 患者相談窓口の設置</li> <li>(10) 患者との情報共有</li> <li>(11) 内部通報窓口の設置</li> <li>(12) 医療安全に係る監査委員会</li> <li>(13) 特定機能病院間の相互立入</li> <li>(14) 高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療提供</li> <li>(15) 院内暴力への対応</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有 無 )</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故、インシデント・アクシデント、手術オカレンス、死亡事例等の収集、原因調査、分析</li> <li>2. 医療安全確保のための改善策の立案、職員への周知</li> <li>3. 院内巡視等による改善策の実施状況の評価及び見直し</li> <li>4. 医療安全管理のための研修会の企画、立案、実施</li> <li>5. 医療安全に関する情報の職員への提供及び注意喚起</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 23 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合医療安全対策講習会 (本開催1回、eラーニング公開) 医療安全対策、医療関連感染制御、医薬品の安全使用、医療機器の研修、診療用放射線の安全管理</li> <li>2. 医療安全対策講習会 (本開催1回、eラーニング公開) 個人情報保護について</li> <li>3. 医薬品・医療機器講習会 (本開催1回、eラーニング公開) 医薬品安全使用のための講習会、医療機器安全使用のための研修会</li> <li>4. 新人研修 (全3回※うち新型コロナウイルス感染症により1回中止)</li> <li>5. 研修医・若手医師への研修会 (全3回)</li> <li>6. リスクマネージャー研修 (全1回)</li> <li>7. 看護師による静脈留置針研修 講義と実技 (全6回)</li> <li>8. 血液浄化装置基礎講習会 (全2回)</li> <li>9. 人工呼吸器基礎講習会 (全2回)</li> <li>10. 危機回避講習会 (人工呼吸器・AED) (全5回※新うち型新型コロナウイルス感染症により1回体会)</li> </ol>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

1. 病院長、副院長、医療安全管理部長、医療安全管理部等の管理部門への報告体制の確率と組織的対応の実施
2. 電子カルテネットワークを用いた報告システムの運用
3. 総合医療安全対策会議及び緊急安全対策会議での事実確認及び組織的対応の実施
4. 総合医療安全対策会議及び医療安全推進委員会、医療安全管理部を通じた再発予防策の周知と徹底
5. 院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施
6. 事故等にかかる診療録、看護記録等の精査、指導
7. 東北厚生局、県央保健所、日本医療機能評価機構への適切な報告
8. 医療安全管理のための医療安全対策マニュアルの整備
9. 放射線・病理レポート未既読管理システムの導入、運用

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関する基本的考え方  (2) 院内感染対策のための委員会、その他の組織に関する基本的事項  (3) 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針  (4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針  (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針  (6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針  (7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、病院長への報告  (2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図る。  (3) 院内感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。  (4) 月1回開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 37 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策（別添）</p>	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p> <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）  ・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染の発生状況を把握するため、病院における感染症の発生動向の情報を共有し、院内感染の発生の予防及びまん延の防止を図る。  (2) 重大な院内感染が発生し、院内のみでの対応が困難な事態が発生した場合、または発生したことが疑われる場合は地域の専門家等に相談が行われる体制の確保。  (3) 「院内感染対策の指針」に即した院内感染対策マニュアルの整備、及び見直し。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2020.5 総合安全対策講習会「医薬品の安全管理について」 (本開催1回、eラーニング公開)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品関連の情報周知と副作用報告</li> <li>2. インスリン製剤／高濃度カリウム製剤</li> <li>3. 麻薬／医薬品覚醒剤原料</li> </ol> <p>2021.1 医薬品安全使用のための研修会・医療機器安全使用のための研修会 (本開催1回、eラーニング公開)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全通知・医薬品安全性情報通知から販売名類似等による取り違えについて</li> <li>2. インスリン製剤/高濃度カリウム製剤</li> <li>3. 医薬品安全使用のための業務手順書の改訂</li> <li>4. 麻薬の事故報告について</li> <li>5. 経腸分野コネクタの切り替えについて</li> </ol>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のため業務手順書」に基づいた「業務チェック表」の修正版を現在作成中。作成後にはこれまで通り各部署に配布し、チェックしたものを回収し確認後、回収した「業務チェック表」を基に、各部署を巡回する予定。最終的に医薬品安全管理責任者が確認を行う。現在は別途、医療安全管理部の薬剤師・看護師・医師および医薬品・栄養部会（薬剤師・看護師・医師など）で各部署を巡回し、指導を行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) ：未承認薬はなし。適応外使用医薬品としてオルダミン等あり。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高濃度注射用カリウム製剤の運用変更について</li> <li>2. 筋弛緩薬（注射薬）の運用変更について</li> <li>3. 「未承認薬・医薬品の適応外使用および禁忌の使用」の申請について</li> <li>4. 医薬品安全性通知の作成、配布し周知             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酸化マグネシウム製剤の適正使用について</li> <li>・ 酸化マグネシウム製剤の適正使用について（再通知）</li> <li>・ エルデカルシトールによる高カルシウム血症と血液検査の遵守について</li> </ul> </li> <li>5. 医療安全情報通知の作成、配布し周知             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手術前後におけるビッグアナイド系の休薬について</li> <li>・ 注射処方時の時間指示について</li> <li>・ アラートが機能しなかったことによるアレルギーがある薬剤の投与</li> <li>・ 抗リウマチ剤（メトトレキサート）の過剰投与に伴う骨髄抑制</li> <li>・ 持参薬の処方内容を継続する際の処方・指示漏れ</li> </ul> </li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 137 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機器の新規導入時における研修</li> <li>2. 特定機能病院における定期研修</li> <li>3. 臨床研修医、新人看護師および新入職員の研修</li> <li>4. e-learningを用いた研修</li> <li>5. その他の研修（診療科・部署毎）</li> </ol>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床工学技士による保守点検（年1または年2回の院内保守：動作点検・消耗品交換等）</li> <li>2. メーカーまたは委託専門業者による定期保守点検（年1回程度の定期保守）</li> <li>3. 保守付リース契約機器における専門業者による保守点検（年1回の定期保守）</li> </ol>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不具合や安全性情報については、当該機器に関連する製造販売業者より、一元的かつ正確に情報収集を行い、得られた内容を集約し、関連する部署スタッフへ遅滞なく、情報の提供に努めている。</li> <li>2. 医療機器の添付文章、取扱説明書や簡易操作手順書など、機器の安全使用・保守点検等に関する情報の整理および管理を実施。</li> <li>3. 医療機器の不具合や健康被害等に関し情報収集に努め、病院管理者・医療安全管理部・医療機器安全管理責任者へ向けて、速やかに情報提供を行っている。</li> <li>4. 院内で発生した不具合事象に関して、PMDA（医薬品・医療機器総合機構）へ報告書を提出（3件）、そのうち、2件に関してメーカーから改善案を提示され、機器運用方法の変更を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>事例①：加温加湿チャンバーのピンホールリーク発生から、ネプライザ取付け位置の変更に至った事例</li> <li>事例②：新生児呼吸回路で気道内圧ラインの不意な閉塞によって過剰な供給圧がかかり、皮下気腫・緊張性気胸に至った事例</li> </ul> </li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格(医師 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は副院長であり、医療安全管理部長及び医療安全推進委員会委員長を兼務して、各組織を統括している。また、医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者は医療安全推進委員会委員であり、同委員会での報告を医療安全管理責任者が受けることにより、その業務を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(4名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬剤部医薬品情報管理室(DI室)において、厚労省、PMDA、日本医療機能評価機構、日本病院薬剤師会ホームページおよび製薬企業等から情報を収集し整理を行っている。また、医療安全管理部専従薬剤師と情報の共有を行っている。</p> <p>情報共有の周知方法としては、①定期的には「医薬品・医療機器等安全性情報」やDSU(医薬品安全対策情報)、医療安全管理部から「医薬品に関する院内インシデント報告」の配布、および薬剤部から「DIニュース」の発行配布。②緊急時の場合等には必要に応じ、医療安全管理部から「医療安全通知」および薬剤部からの「業務連絡」「医薬品安全性通知」の発行配布。③電子カルテに「医薬品関連情報」ページを開設し、職員がいつでも確認できるようにしている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認・適応外・禁忌(併用・疾患)等については調剤時の疑義照会や病棟薬剤師による把握に務めている。把握できたデータは、持参薬鑑別時のものを含めて、医薬品情報管理室(DI室)に集約し、集計後、医薬品安全管理責任者に報告している。</p> <p>また、処方医に対する確認や指導を行う手順については、①調剤時や病棟薬剤師ができるだけ疑義照会を行う。②DI室で集約検討後、医薬品安全管理責任者と協議の上、「医薬品安全情報」を作成し、文書にて全体への周知の他、該当診療科や担当医師へ報告を行っている。③状況に応じて、担当医師へ電子カルテや直接の報告を行い、検討を促すなどを行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無(有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部医薬品情報管理室，職種 薬剤師)</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：病状説明書・同意書を病院統一の様式に変更し、既存のもので変更等があれば随時対応している。新規申請については、診療情報管理室、医療安全管理部が連携し確認している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療記録監査委員会にて監査基準に沿って確認し、不備がある場合は改善するよう指導</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（5）名、兼任（7）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（1）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全に係る会議資料及び議事録の作成等の事務</li> <li>2. 事故等発生時の患者等への対応状況の要因分析と再発予防策の立案及び指導</li> <li>3. 事故等の原因究明の実施状況等の要因分析と再発予防策の立案及び指導</li> <li>4. 医療に関わる安全管理のための職員研修の企画・実施</li> <li>5. 医療安全対策マニュアルの整備、職員への周知</li> <li>6. 医療安全対策に関する職員への周知及び評価</li> <li>7. 医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリング -院内巡視によるスタッフミーティングで提起された改善策の実施確認 -全手術におけるオカレンスのモニタリング -1次2次外来におけるCT読影レポートの見落とし防止策の実施と指導、他</li> <li>8. 医薬品及び医療機器の安全使用に関する管理状況の確認及び必要な指導</li> <li>9. 患者相談窓口の相談情報の把握及び相談体制への支援、医療安全管理への活用及び反映</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  - 1、高難度新規医療技術の提供に係る担当部門として医療安全管理部に設置
  - 2、高難度新規医療技術の申請内容の確認
  - 3、評価委員会の意見をふまえ、申請内容の可否を決定
  - 4、定期的（退院後を含む）に手術記録・診療録等によって技術提供状況を確認
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）※うち適応外使用薬品（5件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  1. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に係る担当部門として医療安全管理部に設置
  2. 未承認新規医薬品等の申請内容の確認
  3. 評価委員会の意見も踏まえ、申請内容の可否を決定
  4. 定期的に診療録等の記載内容を確認
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 669 件（外来 94 件、入院 575 件）

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実事及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 361 件

（※管理者が定める水準（国立大学附属病院安全管理協議会で定めた影響度分類 3b 通常の経過では必要が無い処置又は治療が必要になったもの）の当該事象の発生の実事及び発生前の状況に関して医療安全管理部への報告実績。）

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 医療安全管理部、医療安全管理部長、副院長、病院長で全死亡症例の死亡前から死亡に至る過程の診療記録等を回覧し、妥当性を検証
2. 疑義が生じた場合は、当該部署に対して医療安全管理部が確認、更なる確認が必要な場合等は緊急安全対策会議を開催して確認、妥当性を検証
3. 必要な合併症・偶発症報告を推奨し、必要な再発防止策の策定や指導を行う。  
それらの結果を病院長に報告すると共に、医療安全推進委員会で周知

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り （病院名：自治医科大学附属病院）・無

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ （病院名：自治医科大学附属病院）・無

・技術的助言の実施状況

自治医科大学附属病院（書面でのやり取り）

（助言 1※確認事項・質問事項）

薬剤の確認方法としてダブルチェックは行っていますでしょうか。また、行っている場合、どのような方法で、どのタイミングで行うかなどの院内の取り決めがあるのか教えて下さい。実際に取り決め通りにできているのかも教えてください。

（実施 1※回答）

注射薬を準備する際は、実施者を含め看護師 2 名で 6R に沿って、指差し呼称で指示内容と薬品をダブルチェックすることとしている。また、内服薬については準備時に 1 人でチェックし、投薬前にもう一人がチェックすることとなっている。内服と注射薬の手順書を作成し、手順の統一化を行っているが、遵守されていない部分もあるため、遵守のお願いをするとともに手順書の改訂について検討している。

(助言 2※確認事項・質問事項)

医薬品の安全使用のための手順書の更新が2年に1回となっており、更新の感覚が長いように思えるのですが、細かい改訂は更新のタイミングとは別にも行われるのでしょうか。それとも、2年に1回の更新のタイミングでのみ改訂が行われるのか教えてください。

(実施 2※回答)

現状、細かい改訂は行っておらず、基本的に2年に1回のみ改訂となっています。今後、必要に応じ細かい改訂等を検討を行っていきます。

(助言 3※確認事項・質問事項)

適応外・禁忌薬の医薬品の使用ですが、薬剤師が気付いて医師に申請書等の提出を求めた場合に、すべて提出して頂けているのでしょうか。もし、提出して頂けない場合には、何か対策を取っていますでしょうか。また、臨床研修等で院内で別の審査が行われて医薬品を適応外で使用する場合などでも医薬品安全管理責任者が使用状況を把握しているのかも教えてください。

(実施 3※回答)

適応外・禁忌薬の医薬品の使用については、現状全て提出されておられません。提出して頂けない場合、診療科のリスクマネージャーに医療安全管理部長や医薬品安全管理責任者・医療安全管理部専従薬剤師から提出をお願いすることはありますが、今後の未提出を無くすために他の対策を検討いたします。臨床研修等で別の審査が行われた場合、医薬品安全管理責任者は把握できていない状況であるので、把握できるように報告体制等の改善を検討いたします。

(助言 4※確認事項・質問事項)

「インフォームド・コンセントの実施状況の具体的確認方法」に関して、「現在未実施。対象手技の選定中。選定でき次第実施予定。」と回答されています。厚労省がインフォームド・コンセントの全件に関して質的点検を求めているため、当院では、電子カルテに取り込まれた全ての承諾書を、かなりの労力を費やして目視で確認・点検していますが、マンパワーとしてかなり困難かつ費用対効果の悪い作業と考えています。貴院では、どのような手技を選定し、どのように確認する予定でしょうか。予定している具体的確認方法を教えてください。

(実施 4※回答)

説明・同意書のスキャン未実施や、説明・同意漏れを把握するために、電子カルテオーダーより手術室実施手術、内視鏡、カテーテル、CT、MRI、PET、PETCT、結石破碎術、血管造影の実施データを抽出して説明・同意書の量的点検を実施しております。質的点検については、診療記録監査委員会にて実施の月37件実施時に実施しております。量的、量的点検においては、マンパワー的問題より上記手技の説明・同意書の対応が精一杯となっております。今後は人員増をお願いしながら、点検を

広げていきたいと思ひます。

(助言 5※確認事項・質問事項)

「高難度新規医療技術の導入について」に関して、「部門の責任者」と「高難度新規医療技術評価委員会の委員長」は、異なる者が担当しているのでしょうか。異なる場合、部門の責任者は、委員会の審議に関与しているのか教えて下さい。

部門の責任者が審議に関与していない場合、当該技術に関して熟知するのが困難だと思ひられますが、実施後のモニタリングは、委員会ではなく部門が行うことになっているので、モニタリングに支障が生じる可能性があります。技術実施後のモニタリングは、どのように行われているのか教えて下さい。

(実施 5※回答)

当初、当院でも部門の責任者(部門長)と評価委員会の委員長は同一者でしたが、病院機能評価受審時に同一者では好ましくないとの指摘を受け、規程を変更しました。現在は部門長と評価委員会の委員長は異なる者が担当しています。評価委員は規程に基づき委員長が選任するため、部門長が選任されれば審議に関与することになります。そうでない場合も、規程により医療安全管理部所属の医師または歯科医師1名以上が委員として選任されるよう定められているほか、部門長はオブザーバーとして委員会に参加するため、担当部門における当該技術への理解およびその後のモニタリングへの支障は生じておりません。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

医療安全管理部と医療福祉相談室、総合保安対策室と連携し週1回の会議において対応事例の共有と対策の検討を実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 総合医療安全対策講習会(本開催1回、eラーニング公開)

医療安全対策、医療関連感染制御、医薬品の安全使用、医療機器の研修、診療用放射線の安全管理

2. 医療安全対策講習会(本開催1回、eラーニング公開)

個人情報保護について

3. 医薬品・医療機器講習会(本開催1回、eラーニング公開)

医薬品安全使用のための講習会、医療機器安全使用のための研修会

4. 新人研修（全3回※うち新型コロナウイルス感染症により1回中止）
5. 研修医・若手医師への研修会（全3回）
6. リスクマネージャー研修（全1回）
7. 看護師による静脈留置針研修 講義と実技（全6回）
8. 血液浄化装置基礎講習会（全2回）
9. 人工呼吸器基礎講習会（全2回）
10. 危機回避講習会（人工呼吸器・AED）（全5回※新うち型新型コロナウイルス感染症により1回休会）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】

日本医療機能評価機構「2020年度特定機能病院管理者研修（2021.1.20）」

【医療安全管理部長】

日本医療機能評価機構「2020年度特定機能病院管理者研修（2020.12.10）」

【医薬品安全管理責任者】

日本医療機能評価機構「2020年度特定機能病院管理者研修（2020.11.11）」

【医療機器安全管理責任者】

日本医療機能評価機構「2020年度特定機能病院管理者研修（2020.12.10）」

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

病院機能評価（審査実施日 2020年8月26日～28日）

2020年度第1回医療安全に係る監査委員会（2020年9月9日開催）

2020年度第2回医療安全に係る監査委員会（2020年2月2日開催）

2021年度第1回医療安全に係る監査委員会（2021年9月1日開催）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院機能評価で指摘された医療安全に関する評価項目については、課題としてあげられた点を改善



すべく別添①のとおり院内の体制整備等の取り組みを行った。また、監査委員会にて病院機能評価の受審結果を報告し改善に向けた取り組みを監査頂いた。監査委員会の監査内容については議事録を附属病院ホームページ上に公開している。

病院機能評価審査結果報告書は電子カルテ及び学内ウェブページに公開し、全職員が見れるようになっている。

・評価を踏まえ講じた措置

別添①のとおり、病院機能評価の指摘事項に対し、改善に向け院内の体制整備等の取り組みを行った。

(注) 記載時点の状況を記載すること

2020年度 感染対策講習会

	講習会	開催日・開催回数	内容・講師	参加数
全職員対象	1	総合安全対策講習会 2020年6月28日 他 eラーニング	総合安全対策講習会 医療安全管理部、感染制御部、薬剤部、CEセンター、放射線医学講座	2,755
	2	感染対策講習会 2020年7月28日 他 eラーニング	迫りくる感染リスクへの対策 一病院職員に求められる感染対策— 東北大学病院 感染管理室 藤田 浩一 先生	2,685
	3	感染対策講習会 2020年10月1日 他 eラーニング	抗菌薬を鑑別する 感染症コンサルタント、サクラ精機株式会社学術顧問 青木 真 先生	2,059
	4	感染対策講習会 eラーニング	RST・リンクナース報告会	390
	5	感染対策講習会 2021年3月17日 他 eラーニング	如何にして広域スペクトラム抗菌薬を温存するか 沖縄中部病院 感染症内科部長 成田 雅 先生	357
				8,246

	講習会	開催日	内容・講師	参加数	
職種別・部署別対象	1	新入職員教育研修	2020年4月3日	オリエンテーション、PPE・マスク着脱、手洗い実習 感染制御部長 櫻井滋 ほか	132
	2	臨床研修医教育研修	2020年4月3日	オリエンテーション、PPE・マスク着脱、手洗い実習 感染制御部長 櫻井滋 ほか	20
	3	新入薬剤師研修	2020年4月2日	新人薬剤師研修 感染制御部専従薬剤師 稲垣学人	35
	4	新人看護師研修	2020年4月19日	新人看護師研修 感染制御部専従主任看護師 嶋守一恵	81
	5	看護補助者研修①	2020年4月21日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 及川みどり	5
	6	栄養部内衛生勉強会①	2020年7月6日	栄養部における感染対策 感染制御部専従看護師 及川みどり	124
	7	看護補助者研修②	2020年7月17日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 及川みどり	6
	8	看護補助者研修(2年目以上)	2020年9月18日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 及川みどり	59
	9	清掃業者教育研修①	2020年9月17日	清掃業務委託業者の従業者への研修 感染制御部専従主任看護師 嶋守一恵	36
	10	清掃業者教育研修②	2020年9月24日	清掃業務委託業者の従業者への研修 感染制御部専従主任看護師 嶋守一恵	34
	11	放射線技師研修	2020年7月8日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	4
	12	放射線技師研修	2020年7月16日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	6
	13	放射線技師研修	2020年7月31日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	2
	14	放射線技師研修	2020年9月17日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	5
	15	放射線技師研修	2020年10月1日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	5
	16	放射線技師研修	2020年10月8日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	4
	17	放射線技師研修	2020年10月15日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	5
	18	放射線技師研修	2020年10月22日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	5
	19	放射線技師研修	2020年10月29日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従看護師師長 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	4
	20	放射線技師研修	2020年11月5日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 近藤啓子/嶋守一恵/及川みどり/稲垣学人	4
	21	看護補助者研修③	2020年10月28日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 及川みどり	4
	22	栄養部内衛生勉強会②	2020年11月6日	栄養部における感染対策 感染制御部専従看護師 及川みどり	125
	23	CV講習会	2020年11月18日	CV挿入時の感染対策 感染制御部専従看護師師長 近藤啓子	9
	24	臨床工学技士研修	2020年11月25日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 及川みどり/稲垣学人	10
	25	リハビリ研修会	2020年11月25日	COVID-19対応の個人防護具の着脱方法 感染制御部専従 及川みどり/稲垣学人	3
	26	看護補助者研修④	2021年1月13日	看護補助者研修 感染制御部専従看護師 及川みどり	2
	27	PLN <sup>*</sup> 研修会①	2020年6月9日	事例検討 感染制御部専従看護師 及川みどり 嶋守一恵 近藤啓子	3
	28	PLN <sup>*</sup> 研修会②	2020年7月14日	手指衛生と手荒れ予防ケア 内丸MC病棟主任 感染認定看護師 栗山聡美	4
	29	PLN <sup>*</sup> 研修会③	2020年9月8日	個人防護具の着脱方法、環境清拭 感染制御部専従主任看護師 嶋守一恵	4
	30	PLN <sup>*</sup> 研修会④	2020年11月10日	器材の洗浄・消毒・滅菌、鋭利な器材の管理と血液媒介感染防止 感染制御部専従看護師 及川みどり	3
	31	PLN <sup>*</sup> 研修会⑤	2020年12月8日	検体採取の注意点と細菌結果の見方/抗菌薬の適正使用と看護師の役割 細菌検査室副技師長 山田友紀 / 感染制御部専従薬剤師 稲垣学人	5
	32	PLN <sup>*</sup> 研修会⑥	2021年1月12日	適切な患者配置、事例による感染対策の実践 感染制御部専従看護師師長 近藤啓子	4

※PLN：Practice Leader Nurse(実践指導者ナース)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医師であること</li> <li>(2) 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること</li> <li>(3) 組織管理能力等の附属病院を運営する上で必要な資質及び能力を有すること</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載</li> </ul>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
祖父江 憲治	岩手医科大学	○	学長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
佐々木 真理	岩手医科大学		医学部長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
三浦 廣行	岩手医科大学		歯学部長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
小笠原 邦昭	岩手医科大学		附属病院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
鈴木 健二	岩手医科大学		学長が指名する医師である副院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
肥田 圭介	岩手医科大学		医療安全管理を担当する副院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
宮田 剛	岩手県立中央病院 病院長		医学及び医療に関し識見を有する学外者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
野原 勝	岩手県保健福祉部 部長		医学及び医療に関し識見を有する学外者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の2 3 第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の  
設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="radio"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する重要事項</li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況 議事の概要については、附属病院臨床部長会議にて通知を行う</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/>・無 )</li> <li>・公表の方法 附属病院ホームページに掲載</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( 有・<input checked="" type="radio"/> )</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
小笠原 邦昭	○	医師	病院長
鈴木 健二		医師	副院長
黒坂 大次郎		医師	副院長
土井田 稔		医師	副院長
肥田 圭介		医師	副院長
森野 禎浩		医師	副院長
井上 義博		医師	副院長
工藤 賢三		薬剤師	薬剤部長
佐藤 悦子		看護師	看護部長
出口 育美		看護師	副看護部長
遠藤 利明		事務	病院事務部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（  有  無 ）
- ・ 公表の方法  
附属病院ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容  
附属病院長が有する附属病院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限については、次の各号のとおり定めるものとする。
  - (1) 人事執行権限について 岩手医科大学附属病院規程
  - (2) 予算執行権限について 学校法人岩手医科大学事務専決規程
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 附属病院に、副院長を置く。
  - ・ 副院長は、附属病院長を補佐し、附属病院長に事故あるときは、あらかじめ附属病院長が指名した者がその職務を代理する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修（継続・1日間）」を受講

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年1回</p> <p style="text-align: center;">※年2回を予定していたが、第2回目（令和2年3月9日予定）は、 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、開催を中止した。</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医療安全管理責任者、医療安全管理部、総合医療安全対策会議、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について附属病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>② 必要に応じて、理事長又は附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法： 附属病院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三木 保	東京医科大学 医学部 医療 の質・安全管理 分野主任教授	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・無	1
長谷川 頌	長谷川菜園法 律事務所代表		法律に関する識 見を有する者	有・無	1
奥寺 高秋	元特別養護老 人ホーム・日赤 鶯鳴荘園長		医療を受ける者 その他医療従事 者以外の者	有・無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部監査室において、定期監査及び臨時監査を実施している

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ·  無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ·  無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  有 ·  無 )

・ 公表の方法

附属病院ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

<p>開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                  附属病院長に対し、附属病院の管理及び運営に関する事項の概要を、理事会に報告することを義務付け、職務の執行を管理している。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法                  附属病院ホームページに掲載</li> </ul>
---

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。



規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 15 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法</li></ul> <p>内部通報窓口の存在及び窓口の使用方法是、総合医療安全対策会議議事録及び医療安全推進委員会資料の表紙に記載して周知している。また、「医療安全専用の赤ポスト」を病院職員エリア3カ所に設置し環境を整えている。</p>